

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	市民芸術文化祭運営事業			事務事業コード	30450100
概要	市民芸術文化祭の実施				
総合計画	基本施策	5	文化・芸術活動の支援	主管部課名	文化スポーツ部 文化生涯学習課
	施策	45	市民の文化・芸術活動の支援	事業類型	任意事業
	事業種別	重点プロジェクト	事業開始年度	昭和39年度～	見直しの裁量
根拠法令等					
市関連事業					
対象	参加者：日頃から自主的に芸術活動を行っている市民 参観者：全市民				
実施の背景	芸術文化活動を自主的に展開している市民の日頃の成果を発表する機会をつくり、文化活動を育成・奨励していくため、昭和39年度より実施している。				
事業目標	市民相互の文化の交流や、これまで芸術文化に親しみのなかった市民が芸術文化に親しむことを促進し、府中市がこれまで培ってきた伝統や文化を次世代へ継承していくことを目標とする。				
事業内容	府中市芸術文化協会（旧称・府中市文化団体連絡協議会）との共催により、市内各施設において催し物を実施する。各事業については、団体関係者による出演や出品のほか、可能な限り一般市民の参加を呼びかけ、広く事業に参加できる方法をとっている。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
平成30年9月2日オープニングフェスティバル 平成30年12月1日閉会式 使用会場：府中の森芸術劇場・市民活動センター「プラッツ」・郷土の森博物館・文化センター・大國魂神社境内・ルミエール府中 参加者数 5,468人 参観者数 119,224人	府中市芸術文化協会との共催により、全41事業を実施した。府中市美術館の天井改修工事等の理由により、市民文化団体が実施する事業のいくつかは、例年使用している会場より変更となった。会場の変更により、参加者及び参観者数は減少した。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)	
令和元年9月1日オープニングフェスティバル 令和元年11月29日閉会式 使用会場：府中の森芸術劇場・市民活動センター「プラッツ」・美術館・郷土の森博物館・文化センター・大國魂神社境内・ルミエール府中	府中市芸術文化協会との共催により、全39事業を実施する。PR方法や運営方法を工夫し、参加者・参観者の数を増加に努める。	
H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
令和元年9月1日オープニングフェスティバル 令和元年11月29日閉会式 使用会場：府中の森芸術劇場・市民活動センター「プラッツ」・美術館・郷土の森博物館・文化センター・大國魂神社境内・ルミエール府中 参加者数 5,458人 参観者数 116,898人	府中市芸術文化協会との共催により、全39事業を実施した。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R2年度の具体的な取組 (Plan)	R2年度の方向性 (Plan)
令和2年9月6日オープニングフェスティバル 令和2年11月28日閉会式 使用会場：府中の森芸術劇場・市民活動センター「プラッツ」・美術館・郷土の森博物館・文化センター・大國魂神社境内・ルミエール府中	府中市芸術文化協会との共催により、全40事業を実施する。PR方法や運営方法を工夫し、参加者・参観者の数を増加に努める。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	文化・芸術の振興・伝統文化の次世代への継承のため、市民からの要望が高い事業であるが、より多くの参加者・参観者に事業に携わっていただくためにPR方法についても検討を要する。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移					目標値・ 目標年度	指標の分析
			H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
市民芸術文化祭の参加者数	5,580	計画 当初値	5,610	5,640	5,670	5,700	5,780	大幅な会場変更がなかったため、 昨年度と同様の数値となった。
		計画 補正值	-	-	-	-	令和 3年度	
	実績	5,468	5,458	-	-	-		
市民芸術文化祭の参観者数	121,247	計画 当初値	128,000	13,200	136,000	140,000	127,000	
		計画 補正值	-	-	-	-	令和 3年度	
	実績	119,224	116,898	-	-	-		

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要性は低い	2
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	3

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	13,144,000	13,317,000	19,739,000	12,623,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	5,400,000	0	0	0
一般財源	13,144,000	13,317,000	14,339,000	12,623,000	0	0
予算現額	13,050,000	13,317,000	19,739,000	0	0	0
決算額	13,002,265	13,016,352	17,480,472	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	4,600,000	0	0	0
一般財源	13,002,265	13,016,352	12,880,472	0	0	0
執行率	99.6%	97.7%	88.6%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	1.15	1.12	1.24			
職員人件費	8,824,019	8,807,710	9,959,624			
嘱託員数	0	0	0			
嘱託員人件費	0	0	0			
(間接経費)						
間接経費	314,809	248,570	301,929			
総コスト	22,141,093	22,072,632	27,742,025	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
毎年9月初旬から11月下旬にかけ、府中市芸術文化協会（旧称・府中市文化団体連絡協議会）加盟団体を中心として、市内で文化活動を行っている団体や個人が参加でき、また一般市民が参観できる様々な催しを行っている。令和元年度は35団体が39事業を実施した。開催に先立ち府中の森芸術劇場でオープニングフェスティバルを行っており、平成20年度より参加団体自身によるアトラクションを主体とした形に切り替え、また、府中市の文化を紹介する形式をとることにより、市民にとって親しみやすい催物となっている。
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
平成28年度より「開会式」を「オープニングフェスティバル」へと改称し、市民にとってより参観しやすい事業として参観者増加に努めた。各団体の事業についても、参加者・参観者の増加を第一の目標として催物のあり方やPR方法について考え、参加団体の自主性を高めることで、より良い運営と更なる市民参加を目指していきたい。また、市と市民との協働事業として長年開催され、市民の文化・芸術活動の発展の場として定着している事業であることを活かし、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた気運醸成と文化の発展に寄与した取組みを工夫していく。

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	10	35	10	0276000	市民芸術文化祭運営費	13,043,000	12,109,449	12,623,000
2	01	10	35	10	0278600	ラグビーワールドカップ地域交流イベント事業費	6,696,000	5,371,023	
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							19,739,000	17,480,472	12,623,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	民俗芸能伝承普及事業			事務事業コード	30450200
概要	民俗芸能の伝承普及、後継者育成				
総合計画	基本施策	5	文化・芸術活動の支援	主管部課名	文化スポーツ部 文化生涯学習課
	施策	45	市民の文化・芸術活動の支援	事業類型	任意事業
	事業種別	主要な事務事業	事業開始年度	～	見直しの裁量
根拠法令等					
市関連事業					
対象	市民、府中囃子保存会、武蔵国府太鼓連盟等				
実施の背景	府中囃子を昭和58年に市指定無形民俗文化財に指定した。武蔵国府太鼓を昭和57年に市の民俗芸能として創作した。				
事業目標	市の民俗芸能である府中囃子及び武蔵国府太鼓の伝承普及や後継者の育成				
事業内容	1 府中囃子演奏技術伝承事業 府中囃子保存会に演奏技術伝承事業の委託を行い、演奏技術の伝承を図る。 2 武蔵国府太鼓伝承普及事業 武蔵国府太鼓連盟に武蔵国府太鼓の講習会実施を委託し、伝承普及を図る。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
1 府中囃子演奏技術伝承事業 ・事業委託先：府中囃子保存会 ・期間：4月1日～3月31日 2 武蔵国府太鼓伝承普及事業 ・事業委託先：武蔵国府太鼓連盟 ・期間：5月11日～3月29日 (全4回) 3 武蔵国府太鼓のDVD作成・販売	府中囃子演奏技術伝承事業は、後継者を育成するため、技術伝承を府中囃子保存会に加盟している24団体に委託し、事業を継続的に展開した。特に若い世代の指導にあたっては、青少年の健全育成の観点から、囃子を通じ心技体等総合的育成に努めた。武蔵国府太鼓は練習会場の定員の関係から応募資格に制限を設けたが、ほぼ定員どおりの参加者が集まり、府中市民芸術文化祭や桜まつりで練習の成果を発表した。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)
1 府中囃子演奏技術伝承事業 ・事業委託先：府中囃子保存会 ・期間：4月1日～3月31日 2 武蔵国府太鼓伝承普及事業 ・事業委託先：武蔵国府太鼓連盟 ・期間：5月10日～3月27日 (全4回)	府中囃子、武蔵国府太鼓ともに現状のまま継続して実施するが、武蔵国府太鼓は、27年度より設けている3年連続受講までの制限を継続し、新規受講者の開拓を促していく。

H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
1 府中囃子演奏技術伝承事業 ・事業委託先：府中囃子保存会 ・期間：4月1日～3月31日 2 武蔵国府太鼓伝承普及事業 ・事業委託先：武蔵国府太鼓連盟 ・期間：5月10日～3月27日 (全38回) 3 府中囃子のCD及び武蔵国府太鼓のDVD販売	府中囃子演奏技術伝承事業は、後継者を育成するため、技術伝承を府中囃子保存会に加盟している24団体に委託し、事業を継続的に展開した。その結果、加盟団体数が増加した。特に若い世代の指導にあたっては、青少年の健全育成の観点から、囃子を通じ心技体等総合的育成に努めた。武蔵国府太鼓は練習場の定員の関係から応募資格に制限を設けたが、定員数以上の応募があった。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、2月21日以降の講習会を6回中止した。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R2年度の具体的な取組 (Plan)	R2年度の方向性 (Plan)
1 府中囃子演奏技術伝承事業 ・事業委託先：府中囃子保存会 ・期間：4月1日～3月31日 2 武蔵国府太鼓伝承普及事業 ・事業委託先：武蔵国府太鼓連盟 ・期間：5月8日～3月26日 (全4回) 3 府中囃子のCD及び武蔵国府太鼓のDVD販売	府中囃子、武蔵国府太鼓ともに現状のまま継続して実施する。武蔵国府太鼓は、27年度より設けている3年連続受講までの制限を継続し、新規受講者の開拓を促していく。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開講を見合わせており、開講時期を検討していく。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	本事業を実施することにより、府中市の民族芸能である府中囃子と武蔵国府太鼓の伝承・普及を推進しているため、今後も継続して実施していく。
B 現状のまま継続		
C 見直しして継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
武蔵国府太鼓伝承事業参加者数	50	計画値 当初値	46	50	50	50	受講希望者が音楽室の定員をオーバーしていることや、新規受講者の開拓を促すべく連続3年を受講限度とした。
		計画値 補正值	-	-	-	-	
	実績	46	50	-	-	-	
-	-	計画値 当初値	-	-	-	-	
		計画値 補正值	-	-	-	-	
-	-	実績	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施するべきである	実施する必要性は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	2
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	3,202,000	6,069,000	2,380,000	2,309,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	2,700,000	0	0	0	0
一般財源	3,202,000	3,369,000	2,380,000	2,309,000	0	0
予算現額	2,778,000	6,069,000	2,380,000	0	0	0
決算額	2,682,828	5,380,905	2,160,764	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	2,900,000	0	0	0	0
一般財源	2,682,828	2,480,905	2,160,764	0	0	0
執行率	96.6%	88.7%	90.8%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	0.28	0.27	0.27			
職員人件費	2,127,219	2,123,287	2,168,628			
嘱託員数	0	0	0			
嘱託員人件費	0	0	0			
(間接経費)						
間接経費	75,891	59,923	65,742			
総コスト	4,885,938	7,564,115	4,395,134	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

<p>これまでの主な取組と成果</p> <p>市の民俗芸能である府中囃子（市指定無形民俗文化財）の演奏技術伝承事業を実施し、府中囃子の保存伝承に努めており、府中囃子の継承団体である府中囃子保存会の会員数は増加している。また、市の創作芸能である武蔵国府太鼓の演奏技術伝承事業として新規受講者の開拓を促しながら講習会を実施している。平成29年に府中囃子の演奏を収録したCDの作成・販売を開始し、平成30年には武蔵国府太鼓を収録したDVDの作成・販売をすることで伝承と市内外へ広く普及に努めることができた。</p>
<p>今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）</p> <p>武蔵国府太鼓は、市の民俗芸能として市民に認識されつつあるが、継承団体数や規模は発展途上であり、講習会の修了者の処遇と併せて課題となっている。また、府中囃子・武蔵国府太鼓ともに、多くの人に知ってもらうためにDVD等を活用して更に市内外へ広くPRしていく必要がある。</p>

6 構成事業一覧

(単位：円)

No.	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	10	35	10	0278000	民俗芸能伝承普及事業費	2,380,000	2,160,764	2,309,000
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							2,380,000	2,160,764	2,309,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	市民文化活動事業奨励事業			事務事業コード	30450300
概要	芸術文化活動において特に功績のあった者と、長期にわたり芸術文化団体の活動に尽力した者の表彰。				
総合計画	基本施策	5	文化・芸術活動の支援	主管部課名	文化スポーツ部 文化生涯学習課
	施策	45	市民の文化・芸術活動の支援	事業類型	任意事業
	事業種別	主要な事務事業	事業開始年度	～	見直しの裁量
根拠法令等	府中市民芸術文化奨励賞の選考及び授与等に関する要綱、感謝状の贈呈に関する基準				
市関連事業					
対象	府中市民芸術文化奨励賞は、期間内に、自主的な芸術文化活動において特に功績のあった個人、または団体。府中市文化活動功労賞は、芸術文化団体の役員を10年以上経験した個人。				
実施の背景	平成6年に府中市民芸術文化奨励賞の選考及び授与等に関する要綱が制定された。また、昭和52年に感謝状の贈呈に関する基準が制定された。				
事業目標	市民文化活動を奨励することにより広く市民文化の振興と向上を図る。				
事業内容	芸術文化奨励賞については、期間内に芸術文化活動において特に功績のあった個人または団体を対象に、広報等で候補者を募り、審査委員会を設置して該当者を決定する。 文化活動功労賞については、芸術文化団体の役員を10年以上務めた者を対象に、各文化団体からの推薦により候補者を募り該当者を決定する。 共に府中市民芸術文化祭開会式で表彰する。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<ul style="list-style-type: none"> 府中市民芸術文化奨励賞 1名授与 府中市文化活動功労賞 5名授与 	府中市民芸術文化奨励賞については、受賞条件の該当者が1名、府中市文化活動功労賞については、受賞条件の該当者が5名であった。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)	
<ul style="list-style-type: none"> 府中市民芸術文化奨励賞 広報及びホームページで推薦を募集、主管課にて審査。 府中市文化活動功労賞 府中市芸術文化協会及び文化センター自主グループ連絡会に候補者の推薦を依頼、主管課にて審査。 共に該当者は府中市民芸術文化祭オープニングフェスティバルで表彰する。 	府中市民芸術文化奨励賞及び府中市文化活動功労賞の受賞者数について、それぞれの計画値を達成できるよう周知を図る。	
H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<ul style="list-style-type: none"> 府中市民芸術文化奨励賞 1名授与 府中市文化活動功労賞 13名授与 	府中市民芸術文化奨励賞については、受賞条件に該当する者が1名いた。府中市文化活動功労賞については、受賞条件に該当する者が13名いた。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R2年度の具体的な取組 (Plan)	R2年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> 府中市民芸術文化奨励賞 広報及びホームページで推薦を募集、主管課にて審査。 府中市文化活動功労賞 府中市芸術文化協会及び文化センター自主グループ連絡会に候補者の推薦を依頼、主管課にて審査。 共に該当者は府中市民芸術文化祭オープニングフェスティバルで表彰する。 	府中市民芸術文化奨励賞及び府中市文化活動功労賞の受賞者数について、それぞれの計画値を達成できるよう周知を図る。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	本事業は、文化活動における功績を称えられるもので、市民の文化活動の推進に寄与していると考えます。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
府中市民芸術文化奨励賞受賞者数	1	計画値 当初値	1	1	1	1	指標については該当者が1名いたため、計画値をどおりとなった。 指標については受賞条件に該当する者が13名と、計画値を上回った。
		計画値 補正值	-	-	-	-	
	実績	1	1	-	-	-	
府中市文化活動功労賞受賞者数	10	計画値 当初値	10	10	10	10	17 令和3年度
		計画値 補正值	-	-	-	-	
	実績	5	13	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施するべきである	実施する必要は低い	2
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	2
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	3

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	119,000	111,000	106,000	101,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	119,000	111,000	106,000	101,000	0	0
予算現額	54,000	111,000	106,000	0	0	0
決算額	44,270	59,412	72,994	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	44,270	59,412	72,994	0	0	0
執行率	82.0%	53.5%	68.9%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	0.25	0.24	0.24			
職員人件費	1,890,861	1,887,366	1,927,669			
嘱託員数	0	0	0			
嘱託員人件費	0	0	0			
(間接経費)						
間接経費	67,459	53,265	58,438			
総コスト	2,002,590	2,000,043	2,059,101	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
市民芸術文化奨励賞は、自主的な芸術文化活動において著しい成果をあげた個人や団体を表彰し、市民文化の更なる振興と向上を図ってきた。 文化活動功労賞は、市内で活動する文化団体において、長期にわたり運営に携わってきた個人に感謝状を贈呈し、今後の活動の励みとなってきた。
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
市民芸術文化奨励賞について、広報等で表彰者の推薦を募集しているが、応募が少ないため、市内の小中学校などへ事業の周知を図り広く候補者を募る。

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	10	35	10	0277000	市民文化活動事業奨励費	106,000	72,994	101,000
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							106,000	72,994	101,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	文化活動支援事業			事務事業コード	30450400
概要	市民を対象として実施される文化事業に補助金を交付する。また、第2次府中市文化振興計画を策定する。				
総合計画	基本施策	5	文化・芸術活動の支援	主管部課名	文化スポーツ部 文化生涯学習課
	施策	45	市民の文化・芸術活動の支援	事業類型	任意事業
	事業種別	その他の事務事業	事業開始年度	昭和59年度～	見直しの裁量
根拠法令等	府中市市民文化活動に対する補助金交付要綱、府中市附属機関の設置等に関する条例				
市関連事業					
対象	府中市芸術文化協会（旧称・府中市文化団体連絡協議会）加盟団体が実施する市民を対象にした文化事業、文化に関する施策				
実施の背景	府中市の伝統文化・芸術の継承及び、新しい文化人の育成に寄与することを目的とし、昭和59年度より開始された。現文化振興計画の計画期間が29年度をもって終了することに伴い、引き続き本市における文化施策を推進するため、次期計画を策定する。				
事業目標	▽様々な芸術文化活動を補助することにより、市民交流を深め、伝統文化や伝統芸能とふれあい、芸術文化への興味と理解を育み、健全な地域社会づくりに貢献することを目標とする。▽第2次府中市文化振興計画を策定する。				
事業内容	▽市民が主体的に取り組んでいる文化振興活動について支援することを意図とし、市民を対象として実施される文化事業に対して補助金を交付する。 ▽文化振興計画検討協議会の委員は、有識者ほか、文化・芸術に関係する各団体の関係者、公募市民2名を含み10名で構成している。市長の諮問に応じて、第2次府中市文化振興計画案に関する事項等について審議する。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
府中市芸術文化協会加盟団体が実施する市民を対象にした文化事業に、補助金14,000円を上限として、13事業に交付した。	14事業（団体）からの申請を受け付けたが、1事業（団体）について、事業の不履行により、13事業に交付に留まった。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)	
対象団体である府中市芸術文化協会加盟団体に事業の周知を図り、交付希望団体が増えるよう促していく。	府中市芸術文化協会加盟団体が実施する市民を対象にした文化事業に、補助金14,000円を上限として交付し、今年度は14事業（団体）からの申請を見込んでいく。	
H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
府中市芸術文化協会加盟団体が実施する市民を対象にした文化事業に、補助金14,000円を上限として、10事業に交付した。	13事業（団体）からの申請を受け付けたが、3事業（団体）について、事業の不履行により、10事業に交付に留まった。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R2年度の具体的な取組 (Plan)	R2年度の方向性 (Plan)
対象団体である府中市芸術文化協会加盟団体に事業の周知を図り、交付希望団体が増えるよう促していく。	府中市芸術文化協会加盟団体が実施する市民を対象にした文化事業に、補助金14,000円を上限として交付し、今年度は14事業（団体）からの申請を見込んでいく。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	交付希望団体が増えるよう促していくが、対象となる事業が限られており、拡大は困難であるため、現状のまま継続が適当と考える。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析	
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度			
市民文化活動に対する補助 金交付事業数	14	計画 当初値	14	15	16	17	18 令和 3年度	1 団体が補助金交付要件の府中市 芸術文化協会を脱退したため、計 画値を補正した。 申請を見込んでいた14団体のう ち、1団体の申請書が未提出だっ たほか、3団体について事業の不 履行があったため、計画値を下回 った。
		計画 補正值	-	14	-	-		
	事業 実績	13	10	-	-	-		
-	-	計画 当初値	-	-	-	-	-	
		計画 補正值	-	-	-	-	-	
-	-	実績	-	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現 状 分 析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施するべきである	実施する必要は低い	2
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	1

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当 初 予 算 額	5,768,000	196,000	196,000	196,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都 支 出 金	0	0	0	0	0	0
市 債	0	0	0	0	0	0
そ の 他	0	0	0	0	0	0
一 般 財 源	5,768,000	196,000	196,000	196,000	0	0
予 算 現 額	5,768,000	196,000	196,000	0	0	0
決 算 額	5,295,788	182,000	140,000	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都 支 出 金	0	0	0	0	0	0
市 債	0	0	0	0	0	0
そ の 他	0	0	0	0	0	0
一 般 財 源	5,295,788	182,000	140,000	0	0	0
執 行 率	91.8%	92.9%	71.4%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職 員 数	0.37	0.36	0.36			
職 員 人 件 費	2,836,292	2,831,050	2,891,504			
嘱 託 員 数	0	0	0			
嘱 託 員 人 件 費	0	0	0			
(間接経費)						
間 接 経 費	101,188	79,897	87,656			
総 コ ス ト	8,233,268	3,092,947	3,119,160	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
補助金交付の対象となる府中市芸術文化協会加盟団体全体に交付要件の説明を行い、一般市民を対象とした事業を実施する団体へ支援している。令和元年度は10団体が講座、講習会などを実施し、市民に文化活動の機会を提供した。
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
事業の内容によっては一般の参加者が集まりにくい現状がある。今後、実施団体に事業の趣旨をよく理解していただき、事業内容や市民へのPR方法に工夫を凝らす必要がある。

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	10	35	10	0279000	補助金 文化団体活動事業費	196,000	140,000	196,000
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							196,000	140,000	196,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	市民文化の日運営事業			事務事業コード	30450500
概要	市民文化の日の実施。				
総合計画	基本施策	5	文化・芸術活動の支援	主管部課名	文化スポーツ部 文化生涯学習課
	施策	45	市民の文化・芸術活動の支援	事業類型	任意事業
	事業種別	その他の事務事業	事業開始年度	平成26年度～	見直しの裁量
根拠法令等					
市関連事業					
対象	全市民				
実施の背景	府中市文化振興計画において策定されている施策であり、市制60周年の平成26年度に合わせ、事業を開始する。				
事業目標	市民が身近な場所で良質な文化芸術に親しみ、喜びや感動を味わうことができる環境の形成を目標とする。				
事業内容	10月第2日曜日を「市民文化の日」（平成26年度のみ10月5日）と定め、郷土の森博物館、府中市美術館の入場料、観覧料を無料とするほか、その他各文化施設において各種イベントを実施し、市民が多くの芸術文化・歴史に触れられるよう整備する。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
10月14日に次の施設において、入場料・観覧料の無料、または無料講座等各種イベントを実施した。 府中の森芸術劇場、市民会館、郷土の森博物館、ふるさと府中歴史館、武蔵府中熊野神社古墳展示館、生涯学習センター、中央図書館、都立府中の森公園 府中市美術館（休館中のため縮小して実施） 来場者数 延べ12,780人	30年度はJAZZinFUCHUと別日での開催であったこと、施設の閉館や休館等の影響で来場者数が減少した。 ポスター・パンフレット・のぼり旗を設置することにより、事業の周知を図った。また、スタンプラリーの実施により複数施設を巡り市民が様々な文化施設に触れる機会を提供した。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)	
10月13日に次の施設において、入場料・観覧料の無料、または無料講座等各種イベントを実施する。 府中の森芸術劇場、市民会館、郷土の森博物館、ふるさと府中歴史館、武蔵府中熊野神社古墳展示館、生涯学習センター、中央図書館、都立府中の森公園 府中市美術館	実施について、パンフレット・ポスター等を活用し市民への周知を図る。当日はスタンプラリーを実施し、楽しみながら多くの施設に足を運んでもらえるような取り組みを行う。また、より市民が親しみをもってもらえる事業となるよう工夫を図る。 各施設とも可能な範囲で東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成を図る取り組みを実施する。	
H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
10月13日に次の施設において、入場料・観覧料の無料、または無料講座等各種イベントを実施した。 府中の森芸術劇場、市民会館、郷土の森博物館、ふるさと府中歴史館、武蔵府中熊野神社古墳展示館、生涯学習センター、中央図書館、府中市美術館 都立府中の森公園は台風の影響により中止 来場者数 延べ9,292人	台風19号の影響により一部イベントを中止したことで来場者数が減少した。 スタンプラリー（当日3館以上まわると景品の缶バッジがもらえる）を行うことで、複数の施設を回って事業に参加してもらえるようになった。 各施設とも可能な範囲で東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成を図る取り組みを実施した。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R2年度の具体的な取組 (Plan)	R2年度の方向性 (Plan)
10月11日に次の施設において、入場料・観覧料の無料、または無料講座等各種イベントを実施する。 府中の森芸術劇場、市民会館、郷土の森博物館、ふるさと府中歴史館、武蔵府中熊野神社古墳展示館、生涯学習センター、中央図書館、都立府中の森公園 府中市美術館	実施について、パンフレット・ポスター等を活用し市民への周知を図る。当日は、国や都の方針に沿った新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行い、安心して参加できるイベントとなるよう配慮する。 各施設とも可能な範囲で東京オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成を図る取り組みを実施する。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	より多くの市民に足を運んでもらえるよう内容等を工夫する。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
市民文化の日の来場者数	16,551	計画値 当初値	17,100	17,400	17,700	18,000	台風19号の影響により一部イベントを中止したことで来場者数が減少した。
		計画値 補正值	-	-	-	-	
	実績	12,780	9,292	-	-	-	
-	-	計画値 当初値	-	-	-	-	
		計画値 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	2
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	1
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	2
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	3

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	237,000	228,000	146,000	97,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	237,000	228,000	146,000	97,000	0	0
予算現額	209,000	228,000	146,000	0	0	0
決算額	207,370	188,228	132,215	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	207,370	188,228	132,215	0	0	0
執行率	99.2%	82.6%	90.6%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	0.31	0.30	0.30			
職員人件費	2,363,577	2,359,208	2,409,587			
嘱託員数	0	0	0			
嘱託員人件費	0	0	0			
(間接経費)						
間接経費	84,323	66,581	73,047			
総コスト	2,655,270	2,614,017	2,614,849	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

<p>これまでの主な取組と成果</p> <p>当事業は、平成25年度まで府中市美術館・府中の森芸術劇場・府中市生涯学習センター・都立府中の森公園の4施設による共催で行っていたイベント「府中の森の文化まつり」の内容を、開催施設の増加、入館料・観覧料の無料等の取組みにより、発展的に受け継ぐものである。</p>
<p>今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）</p> <p>事業の拡大方法やPR方法について考え、来場者の増加につなげたい。また、屋外イベントについては、雨天の場合を想定した事業内容や対応策などを考える。文化施設を会場として、市内で文化・芸術に身近に触れていただくことを目的にしていることを活かし、各会場で東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の気運醸成や文化の発展に寄与する取組みを工夫していく。</p>

6 構成事業一覧

(単位：円)

No.	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	10	35	10	0276500	市民文化の日運営費	146,000	132,215	97,000
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							146,000	132,215	97,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	市民会館管理運営事業			事務事業コード	30460300
概要	市民会館の管理及び業務運営				
総合計画	基本施策	5	文化・芸術活動の支援	主管部課名	文化スポーツ部 文化生涯学習課
	施策	46	文化施設の有効活用	事業類型	任意事業
	事業種別	その他の事務事業	事業開始年度	平成19年度～	見直しの裁量
根拠法令等	府中市市民会館条例				
市関連事業	府中市文化振興計画				
対象	市民会館				
実施の背景	平成17年度PFI府中市市民会館・中央図書館(株)と契約し、平成19年12月1日開館。平成34年9月までの15年契約。市民会館部分については、指定管理者制度を導入している。				
事業目標	当該施設を安心・安全かつ快適に利用していただき、稼働率を増加させることにより、より多くの市民に親しまれる文化施設とする。				
事業内容	(株)京王設備サービスを指定管理者として、コンベンションホール飛鳥、会議室、音楽練習室等を有する市民会館の適正かつ計画的な管理運営を行い、以下の業務について指定管理者が行う。一方で、施設の維持管理業務（一部運営業務）については、SPCであるPFI府中市市民会館・中央図書館(株)が行う。 ・市民会館の使用許可に関する業務（不許可・条件変更も含む。） ・市民会館の使用に係る利用料金の徴収に関する業務（還付・減免を含む。） ・市民会館の運営に関する業務 ・物品販売の許可に関する業務				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▼(株)京王設備サービスへの業務運営委託 ▼第3期指定管理（平成28年4月～令和4年9月） ▼PFI府中市市民会館・中央図書館(株)への施設管理運営委託 【利用状況】 コンベンションホール、講師控室、レクリエーションルーム、音楽練習室 利用率 59.0%	施設の維持管理業務を行っている株式会社京王設備サービスが指定管理者により、効率的かつ適正な施設運営を図ることができた。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)
PFI事業者と連携して一体的な管理運営を行い、市民サービスの向上を目指す。さらなる稼働率の確保に努める。現PFI事業者との契約終了後の運営手法について、調査を進めていく。	引き続きさらなる稼働率の確保に努め、安全で利用しやすい施設を目指す。次期運営手法の調査結果を基礎資料として、検討を進めていく。

H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▼(株)京王設備サービスへの業務運営委託 ▼第3期指定管理（平成28年4月～令和4年9月） ▼PFI府中市市民会館・中央図書館(株)への施設管理運営委託 【利用状況】 コンベンションホール、講師控室、レクリエーションルーム、音楽練習室 利用率 55.6%	施設の維持管理業務を行っている(株)京王設備サービスが指定管理者により、効率的かつ適正な施設運営を図ることができた。建物の劣化診断等の調査を行った。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R2年度の具体的な取組 (Plan)	R2年度の方向性 (Plan)
PFI事業者と連携して一体的な管理運営を行い、市民サービスの向上を目指す。さらなる稼働率の確保に努める。	現PFI事業者との契約終了後の契約について、準備を進めていく。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	令和4年9月のPFI事業終了まで、現状のままの事業を継続していく。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
市民会館平均稼働率	59	計画 当初値	59	60	61	62	PFI事業方式により施設の建設から管理運営まで、民間等のノウハウを活用することで稼働率の向上が期待される。新型コロナウイルスに係る施設予約取消により、稼働率が低下した。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	%	実績	59	56	-	-	
	-	計画 当初値	-	-	-	-	
		計画 補正值	-	-	-	-	
	-	実績	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施するべきである	実施する必要性は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	3

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	170,646,000	173,532,000	177,150,000	182,272,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	13,400,000	14,800,000	17,000,000	19,500,000	0	0
一般財源	157,246,000	158,732,000	160,150,000	162,772,000	0	0
予算現額	170,646,000	173,532,000	180,325,000	0	0	0
決算額	168,825,813	171,555,734	179,288,148	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	12,390,700	14,612,100	16,537,200	0	0	0
一般財源	156,435,113	156,943,634	162,750,948	0	0	0
執行率	98.9%	98.9%	99.4%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	0.72	1.71	1.75			
職員人件費	5,515,012	13,447,486	14,055,921			
嘱託員数	0	0	0			
嘱託員人件費	0	0	0			
(間接経費)						
間接経費	196,755	379,513	426,110			
総コスト	174,537,580	185,382,733	193,770,179	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

<p>これまでの主な取組と成果</p> <p>平成19年に開館し、適正かつ計画的な維持管理・運営に努めている。 市民会館部分については、平成19年度から指定管理者制度を導入して、当該施設の適正かつ計画的な運営に努め、平成28年度からは施設の維持管理業務を行っている株式会社京王設備サービスが指定管理者となったことで、効率的な施設運営を図ることができ、市民により利用しやすい施設となった。</p>
<p>今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）</p> <p>長期修繕計画等に基づき計画的な運営を行う。 PFI府中市民会館・中央図書館(株)及び指定管理者との連携を強化し、サービスの向上を目指し、より多くの市民に利用していただける施設を目指す。 府中グリーンプラザ及び分館の閉館や市民活動センタープラッツの閉館などから活動場所を移す利用者もいるため、市民会館の利用を希望される利用者へきめ細かく対応し、更に稼働率の向上に努める必要がある。平成30年度、令和元年度に行った調査を元に、令和4年9月以降の運営形態について決定していく。</p>

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	10	35	30	0308900	市民会館・中央図書館複合施設 P F I 事業者選定委員会運営費			84,000
2	01	10	35	30	0309900	市民会館複合施設運営手法等調査費	5,100,000	5,067,326	
3	01	10	35	30	0309910	利用料金還付金補償料	0	3,951,075	8,204,000
4	01	10	35	30	0315000	施設管理運営費 業務運営委託料 (債務負担行為解消分)	6,228,000	6,227,036	7,214,000
5	01	10	35	30	0315500	施設管理運営費 管理委託料	219,000	218,128	219,000
6	01	10	35	30	0316500	施設管理運営費 諸経費	777,000	0	777,000
7	01	10	35	30	0318000	市民会館複合施設整備等事業費 管理運営委託料 (債務負担行為解消分)	44,205,000	44,204,398	45,015,000
8	01	10	35	30	0319000	市民会館複合施設整備等事業費 施設購入費 (債務負担行為解消分)	119,621,000	119,620,185	119,759,000
9	01	10	35	30	0319100	市民会館整備事業費 緊急整備工事費	1,000,000	0	1,000,000
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							177,150,000	179,288,148	182,272,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	府中の森芸術劇場管理運営事業			事務事業コード	30460400
概要	府中の森芸術劇場の管理及び運営				
総合計画	基本施策	5	文化・芸術活動の支援	主管部課名	文化スポーツ部 文化生涯学習課
	施策	46	文化施設の有効活用	事業類型	任意事業
	事業種別	主要な事務事業	事業開始年度	平成3年度～	見直しの裁量
根拠法令等	府中市立府中の森芸術劇場条例				
市関連事業	府中駅南口再開発推進事業				
対象	府中の森芸術劇場本館及び分館				
実施の背景	平成3年に、市民の芸術文化の振興を図るために府中の森芸術劇場を設置し、平成18年度から指定管理者制度を導入している。また、平成29年度より府中の森芸術劇場分館を設置し、同様に指定管理者制度を導入している。				
事業目標	当該施設を安全・安心かつ快適に利用していただき、稼働率を増加させることにより、より多くの市民に文化・芸術に関心を持っていただく施設とする。				
事業内容	(公財)府中市文化振興財団が指定管理者となり、3つのホール等を有する府中の森芸術劇場及び4つの音楽練習室を有する府中の森芸術劇場分館について適正かつ計画的な維持管理・運営を行い、以下の業務について指定管理者が行う。一方で、経年劣化による大規模改修等の施設整備については市が行う。 使用許可に関する業務 使用に係る利用料金の徴収に関する業務 維持管理および運営に関する業務 物品販売の許可に関する業務				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<p>【本館】▼施設管理運営委託 ▼施設の老朽化対策の検討 ▼劣化診断及び天井調査・耐震化検討 ▼リモート設備交換修繕 ▼給水ポンプユニット交換修繕 ▼スタインウェイピアノオーバーホール</p> <p>【分館】▼施設管理運営委託 ▼1年点検</p>	<p>【本館】指定管理に係る基本協定書に基づき実施した。また、老朽化の状況を把握するため、劣化診断調査及びホール天井調査・耐震化検討委託を行った。その他、経年劣化が進んだ設備の修繕を実施した。</p> <p>【分館】指定管理に係る基本協定書に基づき実施した。</p>	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)	
<p>【本館】▼施設管理運営委託 ▼施設の老朽化対策の検討 ▼3ホール天井地下補強修繕 ▼どりーむホール等ガラス補強対策 ▼モニュメント撤去 ▼マケット設置 ▼冷却水循環ポンプ交換修繕 ▼指定管理者候補者選定会議</p> <p>【分館】▼施設管理運営委託 ▼2年点検</p>	<p>【本館】指定管理に係る基本協定書に基づき実施し、令和3年度からの第4期指定管理者候補者選定会議を実施する。また、H30年度に実施した劣化診断等調査報告書をもとに施設の老朽化対策について検討を進めるとともに、施設の防災機能の向上を図る。</p> <p>【分館】指定管理に係る基本協定書に基づき実施する予定。</p>	
H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<p>【本館】▼施設管理運営委託 ▼施設の老朽化対策の検討 ▼3ホール天井地下補強修繕 ▼どりーむホール等ガラス補強対策 ▼モニュメント撤去 ▼マケット設置 ▼冷却水循環ポンプ交換修繕 ▼指定管理者候補者選定会議</p> <p>【分館】▼施設管理運営委託 ▼2年点検</p>	<p>【本館】指定管理に係る基本協定書に基づき実施し、令和3年度からの第4期指定管理者候補者選定会議を実施する。また、H30年度に実施した劣化診断等調査報告書をもとに施設の老朽化対策について検討を進めるとともに、施設の防災機能の向上を図る。</p> <p>【分館】指定管理に係る基本協定書に基づき実施した。稼働率上昇に伴う利用者増加に対応するため、日常的な施設点検をこまめに実施し、安全かつ快適な施設運営を図った。</p>	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R2年度の具体的な取組 (Plan)	R2年度の方向性 (Plan)
<p>【本館】▼施設管理運営委託 ▼施設の改修内容等検討調査委託 ▼ウィーンホール照明調光卓修繕 ▼駐車場精算機更新修繕 ▼冷温水循環ポンプ交換修繕 ▼指定管理者候補者選定会議</p> <p>【分館】▼施設管理運営委託 ▼定期保守点検</p>	<p>【本館】指定管理に係る基本協定書に基づき実施し、令和3年度からの第4期指定管理者候補者選定会議を実施する。また、H30年度に実施した劣化診断等調査報告書をもとに、施設の改修内容等検討調査委託を実施する。</p> <p>【分館】指定管理に係る基本協定書に基づき実施する。</p>

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	市の財政状況を考慮し、指定管理者には一層の経営努力を求めていくが、基本的には指定管理に係る基本協定書に基づき実施していく。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
府中の森芸術劇場3ホール 平均稼働率	72.1	計画 当初値	76	77	77	78	4月～5月にかけて実施した天井 下地補強修繕のため、3ホールの 利用を休止した。また、台風19 号及び新型コロナウイルス感染拡 大防止に係る臨時休館や、2月2 0日以降の新型コロナウイルスに 係る施設予約取消により、2月中 旬まで好調に推移していた稼働率 が激減した。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	%	実績	76.1	74.1	-	-	
府中の森芸術劇場分館第1 ～4音楽練習室平均稼働率	71.4	計画 当初値	82	83	84	85	4月～5月にかけて実施した天井 下地補強修繕のため、3ホールの 利用を休止した。また、台風19 号及び新型コロナウイルス感染拡 大防止に係る臨時休館や、2月2 0日以降の新型コロナウイルスに 係る施設予約取消により、2月中 旬まで好調に推移していた稼働率 が激減した。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	%	実績	90.2	86.8	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施するべきである	実施する必要性は低い	2
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	827,218,000	368,460,000	440,571,000	392,468,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	58,000,000	0	0	0
市債	311,000,000	0	0	0	0	0
その他	203,324,000	15,000,000	23,000,000	25,000,000	0	0
一般財源	312,894,000	353,460,000	359,571,000	367,468,000	0	0
予算現額	827,218,000	374,042,000	441,500,000	0	0	0
決算額	816,867,094	362,239,584	440,495,984	0	0	0
国庫支出金	73,400,000	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	54,893,000	0	0	0
市債	256,000,000	0	0	0	0	0
その他	181,830,196	112,455	15,000,000	0	0	0
一般財源	305,636,898	362,127,129	370,602,984	0	0	0
執行率	98.7%	96.8%	99.8%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	1.53	1.79	1.79			
職員人件費	11,739,097	14,076,608	14,377,199			
嘱託員数	0	0	0			
嘱託員人件費	0	0	0			
(間接経費)						
間接経費	418,815	397,274	435,864			
総コスト	829,025,006	376,713,466	455,309,047	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
<p>【本館】平成18年度から指定管理者制度を導入し適正かつ計画的な維持管理・運営に努め、多くの市民に利用されている施設であり高い稼働率を保っている。平成21～22年にかけて第2期改修工事を行い、老朽化していた舞台設備を中心に一新したほか、オストメイト対応トイレやホール内昇降機を設置するなどバリアフリー化も進んだ。また、平成30年度には改修のための劣化診断等調査を実施し、前回の改修工事の対象とならなかった施設・設備についての老朽化対策の検討を行った。</p> <p>【分館】平成29年7月から指定管理者制度を導入し適正かつ計画的な維持管理・運営に努め、多くの市民に利用されている施設であり高い稼働率を保っている。</p>
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
<p>【本館】平成22年9月で終了した第2期改修工事後の管理運営及び施設の老朽化対策を行う。特に、前回改修工事の対象とならなかった施設・設備の老朽化が進んでいるため、長期的な修繕計画を策定する必要がある。令和2年度で第3期指定管理期間が終了することに伴い、第4期指定管理者候補者の選定を開始する。</p> <p>【分館】利用者の増加に対応するため、こまめに日常的な点検を行う。施設の質を落とさず、利用者に満足してもらえる施設運営を継続する。</p>

6 構成事業一覧

(単位：円)

会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額	
						当初予算額	決算額		
1	01	10	35	35	0319990	利用料金還付金補償料	0	18,927,150	
2	01	10	35	35	0320000	施設管理運営費 管理運営業務委託料（債務負担行為 解消分）	344,651,000	329,760,280	322,284,000
3	01	10	35	35	0320010	府中の森芸術劇場指定管理者候補者選定委員会運営費	98,000	96,094	202,000
4	01	10	35	35	0320500	施設管理運営費 諸経費	15,100,000	11,990,700	1,000,000
5	01	10	35	35	0320900	負担金 ル・シーニュ管理組合	6,282,000	6,281,760	6,282,000
6	01	10	35	35	0323005	府中の森芸術劇場整備事業費 調査委託料			34,200,000
7	01	10	35	35	0324100	府中の森芸術劇場整備事業費 舞台設備改修工事費			7,900,000
8	01	10	35	35	0325400	府中の森芸術劇場整備事業費 駐車場設備改修工事費			10,800,000
9	01	10	35	35	0325410	府中の森芸術劇場整備事業費 給排水衛生設備改修工 事費			8,800,000
10	01	10	35	35	0325710	府中の森芸術劇場整備事業費 天井改修工事費（債務 負担行為解消分）	73,440,000	73,440,000	
11	01	10	35	35	0326000	府中の森芸術劇場整備事業費 緊急整備工事費	1,000,000	0	1,000,000
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							440,571,000	440,495,984	392,468,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	補助金 文化振興財団			事務事業コード	30460500
概要	府中の森芸術劇場・府中市郷土の森博物館の自主事業の支援				
総合計画	基本施策	5	文化・芸術活動の支援	主管部課名	文化スポーツ部 文化生涯学習課
	施策	46	文化施設の有効活用	事業類型	任意事業
	事業種別	その他の事務事業	事業開始年度	～	見直しの裁量
根拠法令等					
市関連事業	府中市文化振興計画				
対象	公益財団法人府中文化振興財団				
実施の背景	府中市における地域文化の振興のため、府中の森芸術劇場をはじめとする2施設を拠点にそれぞれの特性を活かした事業の支援を行う。				
事業目標	当該施設を快適に利用していただき、利用者・利用率ともに増加させることにより、より多くの市民に文化、芸術及びふるさと府中の郷土への関心を持っていただく。				
事業内容	(公財)府中文化振興財団の法人管理・自主事業部分に係る人件費及び府中の森芸術劇場、郷土の森博物館において、文化振興財団が実施する、芸術文化振興事業・コミュニティ活動振興事業・郷土資料公開普及事業等の事業費に対して補助している。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<input type="radio"/> 府中の森芸術劇場自主事業 自主・貸館の各事業等77事業 <input type="radio"/> 郷土の森博物館 地域に根差した博物館事業20事業	本事業は、市の地域文化の振興に寄与すべく、芸術文化振興事業、コミュニティ活動振興事業、郷土の森博物館普及事業をそれぞれの館の特徴を活かしながら実施し、芸術家と学校の連携や市民参加型事業の実施などにより市民の芸術文化の向上のために貢献した。 また、平成29年度末で閉館したグリーンプラザを拠点とした事業は府中の森芸術劇場に拠点を移し引き続き展開した。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)
<input type="radio"/> 府中の森芸術劇場自主事業 自主・貸館の各事業等63事業 <input type="radio"/> 郷土の森博物館 地域に根差した博物館事業21事業	市の文化芸術推進計画に基づき、市と公益財団法人府中文化振興財団が市民の文化力の向上や心の豊かさの高揚を図るよう努め、また、市民や専門家、学識経験者によって構成される公益財団法人評議員等の知識・経験やその意見を取り入れた事業企画を行い、他市にはない個性的なブランドを展開していく。

H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<input type="radio"/> 府中の森芸術劇場自主事業 自主・貸館の各事業等72事業 <input type="radio"/> 郷土の森博物館 地域に根差した博物館事業22事業	台風19号及び新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業の一部中止もしくは延期があったものの、幅広い層の市民が参加・体験できる事業を実施し、市民の文化力の向上に努めた。また、改元や東京2020オリンピック・パラリンピックにあわせた事業を行い、競技大会の気運醸成に貢献した。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R2年度の具体的な取組 (Plan)	R2年度の方向性 (Plan)
<input type="radio"/> 府中の森芸術劇場自主事業 自主・貸館の各事業等78事業 <input type="radio"/> 郷土の森博物館 地域に根差した博物館事業22事業	市の文化芸術推進計画に基づき、更なる市民の文化力の向上や心の豊かさの高揚を図るよう努める。また、市民相互のふれあいの場を提供することで、市民の自主的な文化活動を促進する。 延期となった東京2020オリンピック・パラリンピックにあわせた事業企画を行い、競技大会の気運醸成に貢献する。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	府中文化振興財団は、府中市における芸術・文化とコミュニティ活動の振興を図ることを目的に設立した団体であり、平成23年度より公益財団法人に移行し、市と連携しながら様々な公益目的事業を展開しているところである。厳しい財政状況下でも、事業規模を維持しながら様々な努力により補助金額の削減に努めていることから、現状のまま事業を継続していく。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移					目標値・ 目標年度	指標の分析
			H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
府中の森芸術劇場事業利用者数	271,000	計画 当初値	271,000	271,500	271,500	272,000	272,000	平成23年度から導入した利用料金制により、指定管理者の努力により効果的・効率的な管理運営が可能になったが、平成31年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から施設利用を一部休止または臨時休館としたため、利用者数が計画値に届かなかった。
		計画 補正值	-	-	-	-	令和 3年度	
	実績	303,292	263,610	-	-	-	-	
郷土の森博物館利用者数	293,158	計画 当初値	302,000	311,000	320,000	330,000	333,000	
		計画 補正值	-	-	-	-	令和 3年度	
	実績	274,662	276,650	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	3

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	259,021,000	241,598,000	245,249,000	249,806,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	259,021,000	241,598,000	245,249,000	249,806,000	0	0
予算現額	259,021,000	241,598,000	240,040,000	0	0	0
決算額	249,529,828	233,820,090	238,264,321	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	249,529,828	233,820,090	238,264,321	0	0	0
執行率	96.3%	96.8%	99.3%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	0.17	0.17	0.17			
職員人件費	1,339,360	1,336,885	1,365,432			
嘱託員数	0	0	0			
嘱託員人件費	0	0	0			
(間接経費)						
間接経費	47,783	37,729	41,393			
総コスト	250,916,971	235,194,704	239,671,146	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果

本事業は、市の地域文化の振興に寄与すべく、府中の森芸術劇場、府中グリーンプラザ、郷土の森博物館を拠点として、それぞれの館の特徴を生かしながら各種事業を展開してきた。芸術文化振興事業では、芸術家や学校との連携を進めるほか、各種団体との共催後援事業を組み入れるなど、芸術文化の総合的な事業を展開してきた。コミュニティ活動振興事業では市民参加型事業を中心に心豊かな交流の深まる事業展開をしてきた。平成29年度末にグリーンプラザが閉館したことに伴い、グリーンプラザを拠点に展開していたコミュニティ活動振興事業を府中の森芸術劇場に移して事業を継続した。

今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）

市から公益財団法人府中文化振興財団へ交付する補助金を毎年減額している状況において、文化振興財団独自の自主事業収入の増加を図ることにより、これまで以上に集客努力や広報活動を推進し、各種事業の入場・参加者数の増加を目指す。さらに、より多くの市民が求める充実した内容で他市にない魅力ある事業を展開していくことが課題である。

また、利用者へのリスクを最優先に配慮した対応に取り組むなど、引き続き、安全で快適な管理と利用者本位の柔軟な運営に努める。

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	10	35	35	0321000	補助金 文化振興財団	161,211,000	156,001,559	164,377,000
2	01	50	30	10	1548600	補助金 文化振興財団	7,464,000	6,593,235	7,496,000
3	01	50	30	21	1581000	補助金 文化振興財団	76,574,000	75,669,527	77,933,000
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							245,249,000	238,264,321	249,806,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	郷土の森博物館管理運営事業			事務事業コード	30460600
概要	郷土の森博物館における維持管理・企画運営に係る事業				
総合計画	基本施策	5	文化・芸術活動の支援	主管部課名	文化スポーツ部 ふるさと文化財課
	施策	46	文化施設の有効活用	事業類型	任意事業
	事業種別	主要な事務事業	事業開始年度	昭和62年度～	見直しの裁量
根拠法令等	府中市郷土の森博物館条例				
市関連事業	府中市文化振興計画				
対象	郷土の森博物館				
実施の背景	多くの方々にご利用いただくとともに、ふるさと府中の貴重な歴史資料を収集・保管・活用してきた。市外からの入館者も多く、多摩地区の総合博物館として、本市の歴史・文化の拠点ともいえる教育施設である。				
事業目標	より多くの市民に東京のふるさと府中の郷土・自然や天文に関心を持っていただく。また、ふるさと府中の郷土資料の調査・研究を行うことで、市民に郷土の歴史・文化を伝えていく。				
事業内容	平成18年度から指定管理者制度を導入して、当該施設の適切かつ計画的な維持管理・運営に努めるとともに、地域文化振興を図るためのプラネタリウムの運営や郷土資料調査・研究を行う。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 A 重点化・拡大して継続
<ul style="list-style-type: none"> 施設管理運営委託 郷土の森博物館常設展示室の積極的活用 地域文化振興事業の実施 郷土資料の収集・調査・研究 プラネタリウムの運営・ソフト作成 など (新規事業) 天井耐震化及び大規模改修基本方針策定	当初計画通り事業を実施できた。 郷土の森博物館常設展示室の効果的な活用と教員の研修等を通じて学校との連携強化を図った。これまでの実績を活かし、地域に根差した博物館活用を行った。 プラネタリウム更新工事が完了し、5月にリニューアルオープンした。 また、開館から30年が経過しているため、設備等の老朽化が目立つことから、常設展示室天井耐震化および本館大規模改修の基本方針を策定した。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> 施設管理運営委託 郷土の森博物館常設展示室の積極的活用 地域文化振興事業の実施 郷土資料の収集・調査・研究 プラネタリウムの運営・ソフト作成 など (新規事業) <本館>大規模改修手法等検討、天井等改修実施設計など<園内>施設および復元建築物等の維持改修検討や保存改修検討など	前年度から引き続き継続して事業に取り組み、常設展示室やプラネタリウムの効果的な活用と教員の研修等を通じて学校との連携強化を図る。これまでの実績を活かし、地域に根差した博物館活用を行うとともに、更なる事業の効率化を目指す。 また、引き続き老朽化した設備や建物の改修等の方針決定に向けての委託を行う。

H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 A 重点化・拡大して継続
<ul style="list-style-type: none"> 施設管理運営委託 郷土の森博物館常設展示室の積極的活用 地域文化振興事業の実施 郷土資料の収集・調査・研究 プラネタリウムの運営・ソフト作成 など (新規事業) <本館>大規模改修手法等検討、天井等改修実施設計など<園内>施設および復元建築物等の維持改修検討や保存改修検討など	概ね当初計画通り事業を実施できた。冬季開催の特別展は、人文系の特別展としては過去最多の観覧者数を記録した。また、市民団体との共催事業やプラネタリウムの機能を生かした新企画を通して、今までとは異なる利用者層を取り込むことにも成功した。博物館は開館から30年以上が経過しており、設備等の老朽化が目立つことから、平成31年度は本館大規模改修手法等検討、常設展示室天井等改修に伴う実施設計、園内施設及び復元建築物等の維持・保存改修の検討を行った。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R 2年度の具体的な取組 (Plan)	R 2年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> 施設全体の管理運営及び維持管理 郷土資料の収集・調査・研究 プラネタリウムの運営 展示会や講座等の開催 「梅まつり」等の園内を活用した事業の実施 など (新規事業) 本館劣化部位改修に伴う基本設計、常設展示室等天井改修工事など	新型コロナウイルス対策を実施ながら、郷土の森博物館の管理運営のほか、貴重な歴史資料の収集・保管及び調査・研究を継続する。また、市民に親しまれる施設となるよう展示・プラネタリウム・園内の回遊性の促進を図っていく。施設の維持管理においては、本館劣化部位改修に伴う基本設計や常設展示室等天井改修工事等を実施し、今後も計画的に進めていく。

令和 3年度における事業の位置付け		博物館は本市の歴史・文化の拠点となる教育施設であり、貴重な歴史資料の保全も担う重要な施設でもあることから、維持管理を計画的に実施していく必要がある。また、地域に根差した博物館となるよう様々な事業を展開し、来館者の増加を図っていく。	
A 重点化・拡大して継続	A		
B 現状のまま継続			1 大幅な見直しは必要ない
			2 見直しには法令等の改正が必須
			3 見直しの必要性はあるが時期尚早
	4 現状では見直しが不可能		
C 見直して継続	1 見直し・縮小	A	
	2 他事業との整理・統合		
D 休止・廃止等	1 休止		
	2 廃止		
	3 完了		

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
郷土の森博物館年間入場者数	293, 158	計画 当初値	302, 000	311, 000	320, 000	333, 000	特別展が好調であったため博物館の年間入場者数は前年の実績値を上回った。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和2年3月3日から臨時休館したことや天候不良による影響もあり、博物館入館者数、プラネタリウム観覧者数ともに指標に到達できなかった。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	274, 662	276, 650	-	-	-	
郷土の森博物館プラネタリウム年間観覧者数	65, 538	計画 当初値	70, 000	80, 000	90, 000	100, 000	
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	59, 594	58, 490	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施するべきである	実施する必要は低い	2
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	3

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	415, 304, 000	587, 491, 000	390, 428, 000	578, 385, 000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	6, 711, 000	80, 800, 000	0	0
市債	0	226, 000, 000	0	0	0	0
その他	50, 000, 000	0	7, 000, 000	167, 000, 000	0	0
一般財源	365, 304, 000	361, 491, 000	376, 717, 000	330, 585, 000	0	0
予算現額	421, 694, 000	589, 992, 000	390, 428, 000	0	0	0
決算額	420, 471, 956	587, 222, 476	383, 236, 324	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	137, 000	0	6, 503, 000	0	0	0
市債	0	226, 000, 000	0	0	0	0
その他	50, 000, 000	1, 293, 725	0	0	0	0
一般財源	370, 334, 956	359, 928, 751	376, 733, 324	0	0	0
執行率	99. 7%	99. 5%	98. 2%	0. 0%	0. 0%	0. 0%
(人件費)						
職員数	1. 25	1. 25	0. 95			
職員人件費	9, 602, 030	9, 830, 034	7, 630, 357			
嘱託員数	0. 25	0. 25	0			
嘱託員人件費	780, 100	781, 472	0			
(間接経費)						
間接経費	267, 781	135, 047	327, 908			
総コスト	431, 121, 867	597, 969, 028	391, 194, 589	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
昭和62年開館以来、多くの方々にご利用いただくとともに、ふるさと府中の貴重な歴史資料を収集・保管・活用してきた。多摩地区の総合博物館として、市外からの入館者も多く、本市の歴史・文化の拠点ともいえる教育施設である。平成18年度から指定管理者制度を導入した。平成26年10月には本館常設展示室がリニューアルオープンし、こども歴史街道・体験ステーションコーナーは、特に児童・生徒から人気を集め、リピーターを形成している。博物館全体として、季節ごとの花々などの魅力づくりの創出、入館者へのサービスの向上、おもてなしの心での接客といった取り組みを行っている。平成30年5月には民間活力を導入したにぎわいと魅力ある空間を創出するプラネタリウムとして30年ぶりにリニューアルオープンし、多彩な番組構成とワークショップを提供するなど、博物館全体の活性化を目指した運営を行っている。平成31年度は博物館機能を長期的に維持していくための本館大規模改修手法等検討や常設展示室天井等改修に伴う実施設計等に着手した。
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
<ul style="list-style-type: none"> 博物館としての魅力的な事業を企画・周知するとともに、効果的に実施し、入館者の更なる増加を図る。また、その目標を達成するため、リピーターを増加させるべく創意工夫をこらした事業展開を図る。特に、リニューアル後のプラネタリウムや常設展示室を教育資源として活用していくために、学校との連携を強化していく。これまでの実績を活かし、地域に根ざした博物館活動を行うとともに、更なる事業の効率化が求められる。 郷土の森博物館は、開館から30年以上が経過し、本館は空調関係や雨水管等の劣化部位が目立っている。また、園内の施設や復元建築物も老朽化が進んでおり、博物館機能を長期的に維持し提供していくために計画的な改修への取り組みが大きな課題となっている。 平成30年度に改修工事が完了したプラネタリウムは、常設展などとの相乗効果でより多くの方に来館していただけるよう、魅力的なプログラムを引き続き展開していく。

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	50	30	21	1579000	施設管理運営費 管理運営業務委託料 (債務負担行為 解消分)	258,100,000	258,100,000	253,014,000
2	01	50	30	21	1580000	施設管理運営費 事業委託料	5,625,000	5,625,000	5,654,000
3	01	50	30	21	1580500	施設管理運営費 諸経費	11,438,000	11,358,076	42,947,000
4	01	50	30	21	1588000	郷土の森博物館整備事業費 設計委託料	40,355,000	40,258,728	14,700,000
5	01	50	30	21	1588500	郷土の森博物館整備事業費 監理委託料	2,220,000	891,000	10,070,000
6	01	50	30	21	1588600	郷土の森博物館整備事業費 調査委託料	46,790,000	43,760,520	
7	01	50	30	21	1589110	郷土の森博物館整備事業費 常設展示室天井改修工事 費			242,800,000
8	01	50	30	21	1590200	郷土の森博物館整備事業費 復元建築物改修工事費	10,900,000	10,835,000	8,200,000
9	01	50	30	21	1590400	郷土の森博物館整備事業費 空調和設備改修工事費	7,700,000	7,678,000	
10	01	50	30	21	1590610	郷土の森博物館整備事業費 非常用放送設備改修工事 費	6,300,000	4,730,000	
11	01	50	30	21	1591000	郷土の森博物館整備事業費 緊急整備工事費	1,000,000	0	1,000,000
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							390,428,000	383,236,324	578,385,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	美術館維持管理事業			事務事業コード	30460700
概要	府中市美術館の管理及び運営				
総合計画	基本施策	5	文化・芸術活動の支援	主管部課名	文化スポーツ部 美術館
	施策	46	文化施設の有効活用	事業類型	任意事業
	事業種別	主要な事務事業	事業開始年度	平成12年度～	見直しの裁量
根拠法令等	府中市美術館条例				
市関連事業					
対象	美術館				
実施の背景	市民の文化芸術に対する期待と需要がますます高まっていく中、身近に、心安らぎ希望と充実感を持てる空間を提供していく必要がある。				
事業目標	来館者の安全・快適な鑑賞空間を保持し、美術品の保存管理の安定的安全性を維持する。				
事業内容	<p>施設の適正かつ計画的な維持管理運営に努める。</p> <p>美術館の設置目的と基本テーマ「生活と美術」に基づいた収集保存、企画展示、常設展示、教育普及事業とともに、市民ギャラリー、美術図書室等の充実を図る。</p> <p>学識経験者や団体代表者、公募市民等の12名で構成する美術館運営協議会において、美術館のあり方等、美術館の今後の方向性を審議しており、当該協議会からの答申を基に、美術館の運営を行う。</p>				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<ul style="list-style-type: none"> ▼市民ギャラリーは市内で活動するグループや個人の展示をはじめ、美術大学との共催展や企画展関連企画を促進する。 ▼特定天井改修工事及びそれらに伴う設備改修を行った。 ▼メンバーシップ・賛助会員は、大学への勧誘などで拡大を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ▼建築基準法施行令の一部を改正する政令（平成25年政令第217号）に基づき、特定天井改修工事を実施した。 ▼当初の計画どおり事業を実施できた。 	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)	
<ul style="list-style-type: none"> ▼美術作品8点を購入した。これらを有効活用することに加え創意工夫をこらしながら、常設展の入場者数増加を目指す。 ▼教育普及事業では、土曜日を中心に行うワークショップシリーズのアートスタジオをはじめ、公開制作及び、学校教育と連携した市立小・中学校美術鑑賞教室などの事業を開催し参加者数の増加を目指す。 ▼2階和便器3基（女子2、男子1）を洋式化し、1階だれでもトイレの小ベッドを大型化するとともに、オストメイトを新設する。 	<ul style="list-style-type: none"> ▼適正な施設管理に努め、市民ギャラリーの利用者の増加を図る。 ▼賛助会員の会員数の増加を図る。 ▼2階和便器3基（女子2、男子1）を洋式化し、1階だれでもトイレの小ベッドを大型化するとともに、オストメイトを新設する。 	
H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<ul style="list-style-type: none"> ▼市民ギャラリーは、141日、開催し、21の個人、団体に利用され、観覧者数は、25,428人であった。 ▼教育普及事業では、土曜日を中心に行うワークショップシリーズのアートスタジオをはじめ、公開制作及び、学校教育と連携した市立小・中学校美術鑑賞教室などの事業を開催し参加者数の増加を目指す。 ▼2階和便器3基（女子2、男子1）を洋式化し、1階だれでもトイレの小ベッドを大型化するとともに、オストメイトを新設した。 	<ul style="list-style-type: none"> ▼市民ギャラリー、観覧者数は、増加し、成果をあげたと評価できる。 ▼教育普及事業は、開館以来初めて9万人を上回るなど、十分な成果をあげたと評価できる。 ▼トイレ洋式化改修、オストメイト新設など、計画的どおり実施でき利用者の利便性が向上したものと評価できる。 	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R2年度の具体的な取組 (Plan)	R2年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> ▼絵画、彫刻、書、工芸、写真など、美術作品を展示する個人、団体の利用者の促進を図る。 ▼教育普及事業では、土曜日を中心に行うワークショップシリーズのアートスタジオをはじめ、公開制作及び、学校教育と連携した市立小・中学校美術鑑賞教室などの事業を開催し、美術に対する豊かな感性を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ▼市民ギャラリーの利用者数の拡大を図る。 ▼教育普及事業では、土曜日を中心に行うワークショップシリーズのアートスタジオをはじめ、公開制作及び、学校教育と連携した市立小・中学校美術鑑賞教室などの事業を開催し参加者数の増加を目指す。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	教育普及事業は、開館以来初めて9万人を上回るなど、十分な成果をあげたものと評価できる。当面は、現状のまま継続的に実施する。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
入館者数	174,994	計画 当初値	220,000	220,000	220,000	220,000	展覧会入場者数、教育普及事業参加者数ともに高い水準を維持している。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	144,526	302,529	-	-	-	
-	-	計画 当初値	-	-	-	-	
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施するべきである	実施する必要は低い	2
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	3

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	125,657,000	205,430,000	172,144,000	150,672,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	48,700,000	2,346,000	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	3,127,000	27,211,000	22,220,000	3,220,000	0	0
一般財源	122,530,000	129,519,000	147,578,000	147,452,000	0	0
予算現額	126,573,000	212,911,000	172,003,000	0	0	0
決算額	124,453,410	204,680,588	162,731,142	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	2,000,000	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	3,486,599	22,383,329	2,933,535	0	0	0
一般財源	120,966,811	182,297,259	157,797,607	0	0	0
執行率	98.3%	96.1%	94.6%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	3.67	3.66	3.66			
職員人件費	28,191,560	28,782,339	29,396,955			
嘱託員数	0.2	0.2	0.2			
嘱託員人件費	624,080	625,177	618,185			
(間接経費)						
間接経費	2,688,718	2,340,390	2,543,400			
総コスト	155,957,768	236,428,494	195,289,682	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

<p>これまでの主な取組と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼貫流式ボイラと、温水ヒータを更新した。 ▼施設管理においては、非常時に備え、自家発電機の点検整備の実施した。 ▼節電対策として、深夜電力を活用し冷水を蓄熱し、日中の空調管理に使用して効率を図った。
<p>今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）</p> <p>比較的新しい施設ではあるが、設備の老朽化が現れている。美術品の保管に直接影響するため、不具合箇所の洗出しの結果を踏まえ、施設修繕を計画的に実施していく。</p> <p>メンバーシップ会員、賛助会員の加入促進を図り、財源確保に努める。</p> <p>ボランティア等との協働を継続して実施する。</p>

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	50	30	05	1505500	美術館長活動費			2,016,000
2	01	50	30	30	1607300	美術館運営協議会運営費	264,000	209,000	308,000
3	01	50	30	30	1614000	施設管理費 管理委託料	83,221,000	77,309,419	79,931,000
4	01	50	30	30	1615000	施設管理費 光熱水費及び燃料費	42,029,000	40,194,226	38,164,000
5	01	50	30	30	1616000	施設管理費 諸経費	22,630,000	22,688,497	27,453,000
6	01	50	30	30	1625050	管理用備品整備費			1,800,000
7	01	50	30	30	1625500	美術館整備事業費 空気調和設備改修工事費	16,800,000	16,170,000	
8	01	50	30	30	1625900	美術館整備事業費 トイレ改修工事費	6,200,000	6,160,000	
9	01	50	30	30	1626000	美術館整備事業費 緊急整備工事費	1,000,000	0	1,000,000
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							172,144,000	162,731,142	150,672,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	美術館展覧会運営事業			事務事業コード	30460800
概要	企画展の開催				
総合計画	基本施策	5	文化・芸術活動の支援	主管部課名	文化スポーツ部 美術館
	施策	46	文化施設の有効活用	事業類型	任意事業
	事業種別	その他の事務事業	事業開始年度	平成12年度～	見直しの裁量
根拠法令等	府中市美術館条例				
市関連事業					
対象	全市民及び全利用者				
実施の背景	「生活と美術」の基本テーマの理念に沿い、地域に根ざした展覧会や全国の美術館とのネットワークを生かした市民の期待にこたえる展覧会を企画する。				
事業目標	優れた美術品の鑑賞機会の充実に努め、身近に美術と出会う場所と機会を提供する。				
事業内容	優れた作品との出会いにより美術文化に対する深い理解と親しみをもち、より豊かな美意識を育める場となるように、企画展を催す。子どもの鑑賞活動を深めて、豊かな情操を養える企画展を開催する。本美術館の主催又は共催により、国内外の優れた美術作品を紹介する企画展を開催する。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 A 重点化・拡大して継続
企画展は、「長谷川利行 七色の東京展」においてコンビニエンスストアで前売入場券を委託販売することで、来場者に対する利便性の向上を図った。	当初の計画どおり実施できた。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)	
企画展は、秋の大型展覧会においてコンビニエンスストアで前売入場券を委託販売することで、入場者数の増加を図るとともに、利用者に対する利便性の向上を図る。	▼企画展覧会4事業及び所蔵品展1事業を開催し、効率的な広報活動に努め入場者数の増加とともに、市民の美術文化に対する意識の高揚を図る。	
H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 A 重点化・拡大して継続
▼企画展開催は、「へそまがり日本美術展」、「おかえり美しき明治展」をはじめ、4つの企画展覧会を開催し、観覧者数は、80,666人であった。 ▼コンビニエンスストアでの前売入場券委託販売数は、68枚であった。	企画展は、秋の大型展覧会においてコンビニエンスストアで前売入場券を委託販売することで、入場者数の増加を図るとともに、利用者に対する利便性の向上を図った結果、年間、観覧者数は、8万人を上回るなど、十分な成果があったものと評価できる。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R2年度の具体的な取組 (Plan)	R2年度の方向性 (Plan)
▼緊急事態宣言発令に伴い、ふつうの系譜展は、当初の会期末5月10日のところ4月7日で終了した。また、5月23日から7月8日まで開催予定の武蔵野展は、中止した。 ▼企画展は、秋の大型展覧会においてコンビニエンスストアで前売入場券を委託販売することで、入場者数の増加を図るとともに、利用者に対する利便性の向上を図る。	企画展覧会3事業及び所蔵品展2事業を開催し、効率的な広報活動に努め入場者数の増加とともに、市民の美術文化に対する意識の高揚を図る。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	企画展観覧者数は、8万人を上回るなど、十分な成果があったものと評価できる。当面は、現状のまま継続的に実施する。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
企画展入場者数	45,521	計画 当初値	60,000	60,000	60,000	60,000	令和元年度は、「へそまがり日本美術展」、「おかえり美しき明治展」をはじめ、4つの企画展覧会を開催した。入場者数は、8万人を上回り、十分な成果があったと評価できる。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	46,434	80,666	-	-	-	
-	-	計画 当初値	-	-	-	-	
		計画 補正值	-	-	-	-	
-	-	実績	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要性は低い	2
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	3

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	95,725,000	66,702,000	76,313,000	141,255,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	27,773,000	25,160,000	18,108,000	47,964,000	0	0
一般財源	67,952,000	41,542,000	58,205,000	93,291,000	0	0
予算現額	95,800,000	92,158,000	76,513,000	0	0	0
決算額	93,130,430	89,945,091	70,571,746	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	1,608,000	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	31,812,240	50,320,445	29,879,841	0	0	0
一般財源	59,710,190	39,624,646	40,691,905	0	0	0
執行率	97.2%	97.6%	92.2%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	3.17	4.17	4.17			
職員人件費	24,350,748	32,792,993	33,493,252			
嘱託員数	0.4	0.4	0.4			
嘱託員人件費	1,248,160	1,250,354	1,236,369			
(間接経費)						
間接経費	2,480,289	2,770,877	3,011,230			
総コスト	121,209,627	126,759,315	108,312,598	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
展覧会は、学芸員が一から研究企画している。平成18年の日本経済新聞による全国公立美術館実力調査では、中規模館ながら、企画力では全国で4位となった。 全国美術館会議等への参加の機会などにより、近隣をはじめ全国の美術館との幅広い交流を図り、情報交流や調査、研究、作品の賃貸、共同展覧会の開催を図った。
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
入館者を増やす努力とともに、幅広い年齢層の方々に気軽に来ていただく工夫を行う。 また、市民要望の強い、誰もが知っている作品展覧会を、少なくとも年1回は企画できるよう努める。

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	50	30	30	1608000	展覧会事業費	76,313,000	70,571,746	141,255,000
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							76,313,000	70,571,746	141,255,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	美術館常設展等運営事業			事務事業コード	30460900
概要	所蔵品展及び常設展の開催				
総合計画	基本施策	5	文化・芸術活動の支援	主管部課名	文化スポーツ部 美術館
	施策	46	文化施設の有効活用	事業類型	任意事業
	事業種別	その他の事務事業	事業開始年度	平成12年度～	見直しの裁量
根拠法令等	府中市美術館条例				
市関連事業					
対象	市民、所蔵品				
実施の背景	心の安らぎと希望の持てる空間を市民が求める中、府中市美術館独自の地域美術と所蔵品を調査研究して常設展示し、また様々な教育普及事業を開催して、市民のニーズに答える必要がある。				
事業目標	所蔵品の維持管理及び所蔵品展の開催。教育普及事業の開催。				
事業内容	優れた美術品の鑑賞機会の充実に努め、身近に美術と出会う場所と機会を提供する。様々な教育普及事業を開催して、創作、鑑賞、学習など市民の様々なニーズに答える。美術図書室を充実させ、画集、美術書を市民が安らぎを持って楽しめる空間を提供する。美術品を購入する際や美術品の寄附の申出があった際には、有識者6名により構成する府中市美術品収集選定委員会において、その購入や寄附の受入を審議している。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<p>▼美術作品8点を購入した。これらを有効活用することに加え創意工夫をこらしながら、常設展の入場者数は、47278人を数えた。</p> <p>▼教育普及事業では、土曜日を中心に行うワークショップシリーズのアートスタジオをはじめ、公開制作及び、学校教育と連携した市立小・中学校美術鑑賞教室などの事業を計273回開催し参加者数は36,467人を数えた。</p>	当初の計画どおり実施できた。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)	
<p>▼平成30年度に美術作品を購入した。これらを有効活用することに加え創意工夫をこらしながら、常設展の一日当たり入場者数増加を目指す。</p> <p>▼教育普及事業では、土曜日を中心に行うワークショップシリーズのアートスタジオをはじめ、公開制作及び、学校教育と連携した市立小・中学校美術鑑賞教室などの事業を開催し参加者数の増加を目指す。</p>	<p>▼常設展、教育普及事業を通し、全市民の美術文化に対する知識を高めるとともに意識の高揚を図る。</p> <p>▼他所にはない府中独自の美術風土を発掘、拡充、展開を図るため、適切な美術品を購入する。</p>	
H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
常設展は、258日開催し、観覧者数は、93,069人であった。	常設展観覧者数は、開館以来、初めて9万人を上回り、十分な成果があったものと評価できる。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R2年度の具体的な取組 (Plan)	R2年度の方向性 (Plan)
<p>▼常設展の魅力ある所蔵品展示を計画し、当館の魅力を広く周知させる。</p> <p>▼緊急事態宣言発令に伴い、5月23日から7月8日まで開催予定の武蔵野展を中止した。代わりに、拡大常設展として、「東京近郊のんびり散歩 江戸時代から現代まで展」6月2日から7月8日まで開催する。</p> <p>▼上記のほか、4つの常設展を開催します。</p>	<p>▼常設展、教育普及事業を通し、全市民の美術文化に対する知識を高めるとともに意識の高揚を図る。</p> <p>▼他所にはない府中独自の美術風土を発掘、拡充、展開を図るため、適切な美術品を購入する。</p>

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	常設展観覧者数は、開館以来、初めて9万人を上回り、十分な成果があったものと評価できる。当面は、現状のまま継続的に実施する。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
入場者数	56,015	計画 当初値	60,000	60,000	60,000	60,000	教育普及事業参加者は、開館以来、初めて9万人を上回り、十分な成果があったと評価できる。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	47,278	93,069	-	-	-	
美術普及事業参加者数	58,221	計画 当初値	60,000	60,000	60,000	60,000	
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	36,467	92,213	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	2
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	3

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	32,493,000	18,496,000	28,546,000	40,794,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	2,450,000	2,501,000	7,491,000	23,194,000	0	0
一般財源	30,043,000	15,995,000	21,055,000	17,600,000	0	0
予算現額	31,577,000	18,496,000	28,487,000	0	0	0
決算額	29,840,050	15,924,170	27,394,835	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	3,246,070	2,554,331	12,159,035	0	0	0
一般財源	26,593,980	13,369,839	15,235,800	0	0	0
執行率	94.5%	86.1%	96.2%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	3.16	4.17	4.17			
職員人件費	24,273,932	32,792,993	33,493,252			
嘱託員数	0.4	0.4	0.4			
嘱託員人件費	1,248,160	1,250,354	1,236,369			
(間接経費)						
間接経費	2,473,342	2,770,876	3,011,228			
総コスト	57,835,484	52,738,393	65,135,685	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
今まで収集してきた作品の保存・管理を行い、「生活と美術」の基本テーマのもと、常設展はテーマを設け年間4～6回展示替えを行うとともに、所蔵品展として夏休みにあわせて「ばれたん動物園」など、子どもたちが美術に楽しめる工夫をした展覧会を開催した。
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
収集作品の充実による常設展について、市内高齢者が元気に外へ出て行く場所としての啓発を行う。子どもを対象とした展覧会は、親子を対象とするなど観覧者数が増えるように工夫する必要がある。展覧会及び関連事業の充実を図り、新成人や高齢者など、あらゆる年代への啓発を行い、市民ニーズの変化に対応した企画を開催し、広報に工夫するなどして、観覧者数の増加に努める。

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	50	30	30	1607500	美術品収集選定委員会運営費	240,000	100,000	240,000
2	01	50	30	30	1609000	美術普及事業費	8,528,000	8,155,057	8,231,000
3	01	50	30	30	1610000	所蔵品展示管理費	18,512,000	18,002,015	15,384,000
4	01	50	30	30	1612000	美術品購入費			15,730,000
5	01	50	30	30	1613000	図書資料等購入費	1,048,000	922,763	994,000
6	01	50	30	30	1617000	負担金 全国美術館会議	33,000	30,000	30,000
7	01	50	30	30	1618000	負担金 日本博物館協会	35,000	35,000	35,000
8	01	50	30	30	1619000	負担金 東京の美術館・博物館等共通入館事業費	150,000	150,000	150,000
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							28,546,000	27,394,835	40,794,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	歴史文化財保存活用事業			事務事業コード	30470100
概要	市内文化財の保存及び活用				
総合計画	基本施策	5	文化・芸術活動の支援	主管部課名	文化スポーツ部 ふるさと文化財課
	施策	47	歴史文化遺産の保存と活用	事業類型	法定事業・任意事業混在
	事業種別	その他の事務事業	事業開始年度	昭和31年度～	見直しの裁量
根拠法令等	文化財保護法、東京都文化財保護条例、府中市文化財の保存及び活用に関する条例				
市関連事業	武蔵国府跡保存活用事業・馬場大門ケヤキ並木保護対策事業				
対象	府中市内の文化財				
実施の背景	武蔵国府を中心とする、府中の歴史・文化の情報発信拠点施設として、国府資料展示室の公開、公文書史料室の展示公開事業を実施した。このほかでは、市史跡旧陸軍調布飛行場白糸台掩体壕の保存整備を行い、平和展での展示事業も実施していく。				
事業目標	貴重な文化遺産を後世へと伝えていくために、適切に保存・整備・活用し、調査・研究の成果に基づいて様々な形で広く紹介し、「歴史と伝統あるまち・府中」への郷土愛を高めていく。				
事業内容	国史跡武蔵府中熊野神社古墳、国史跡武蔵国府跡（国衙地区・国司館地区）、馬場大門のケヤキ並木など、他市には無い全国的にも優れた歴史文化遺産を保存し、広く活用するため、市民とともに積極的に保護に取り組んでいく体制や組織を構築する。また、これらの歴史文化遺産を有機的に結びつけることによって、点から線、さらに面として広く活用していく。また、市内の歴史・文化を研究する市民団体である史談会に対し、運営費の一部を補助することで運営を支援する。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<ul style="list-style-type: none"> ▼文化財の維持・管理 ▼文化財保護審議会の運営 ▼多摩郷土誌フェアに出店 ▼白糸台掩体壕の保存処理 ▼武蔵府中熊野神社古墳の緑地等整備及び古墳公園の第1期整備の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ▼白糸台掩体壕の保存処理を含め、文化財の維持・管理ができた。 ▼文化財保護審議会の運営では、「指定基準の見直し」を行った。 ▼多摩郷土誌フェアに出店し、市が発行した様々な資料を一般頒布した。 ▼武蔵府中熊野神社古墳の緑地等整備及び古墳公園第1期整備を行った。 ▼三千人塚の用地取得を行った。 	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> ▼文化財の維持・管理 ▼文化財保護審議会の運営 ▼多摩郷土誌フェアに出店 ▼三千人塚の公有地化 	<ul style="list-style-type: none"> ▼継続して文化財の維持・管理をする。 ▼文化財保護審議会の運営では、文化財指定候補を調査し、新文化財の指定に努めていく。 ▼多摩郷土誌フェアに出店し、市が発行した様々な資料を一般頒布し、PRを図っていききたい。

H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<ul style="list-style-type: none"> ▼三千人塚の公有地化及び簡易整備を含めた文化財の維持・管理 ▼文化財保護審議会の運営 ▼多摩郷土誌フェアへの出店 ▼史談会の運営費への一部補助 ▼大國魂神社本殿修理の一部補助 	<ul style="list-style-type: none"> ▼文化財の維持・管理により保存活用が図られた。 ▼文化財保護審議会へ諮問し「府中市の文化財の保存と活用のあり方について」の答申がなされた。 ▼多摩郷土誌フェアでPRを図ることができた。 ▼史談会の運営を支援し、歴史・文化の研究を進め、大國魂神社本殿修理への補助により、文化財の維持に努めた。 	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R 2年度の具体的な取組 (Plan)	R 2年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> ▼文化財の維持・管理 ▼文化財保護審議会の運営 ▼多摩郷土誌フェアへの出店 ▼史談会の運営費への一部補助 ▼大國魂神社本殿修理への一部補助 	<ul style="list-style-type: none"> ▼継続して文化財の維持・管理をする。 ▼文化財保護審議会の運営では、文化財指定候補を調査し、新文化財の指定に努めていく。 ▼多摩郷土誌フェアに出店し、市が発行した様々な資料を一般に頒布し、PRを図っていききたい。 ▼史談会の運営を支援し、歴史・文化のさらなる研究を進める。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	文化財保護審議会と連携を取り、文化財指定候補を調査し、新文化財の指定を行っていくことが重要である。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析	
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度			
	-	計画値	当初値	-	-	-	-	数値の比較や推移で評価することがなされないため、特に指標の設定は行わない。
		計画値	補正值	-	-	-	-	
		実績	実績	-	-	-	-	
	-	計画値	当初値	-	-	-	-	
		計画値	補正值	-	-	-	-	
		実績	実績	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施するべきである	実施する必要性は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	3

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	15,577,000	7,648,000	23,885,000	33,819,000	0	0
国庫支出金	0	1,750,000	1,800,000	2,303,000	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	10,000	10,000	0	0	0	0
一般財源	15,567,000	5,888,000	22,085,000	31,516,000	0	0
予算現額	17,550,000	10,036,000	23,885,000	0	0	0
決算額	16,259,979	9,733,011	14,364,778	0	0	0
国庫支出金	0	1,750,000	1,171,000	0	0	0
都支出金	145,000	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	2,529,800	0	0	0	0	0
一般財源	13,585,179	7,983,011	13,193,778	0	0	0
執行率	92.6%	97.0%	60.1%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	1.75	1.75	0.85			
職員人件費	13,442,842	13,762,047	6,827,162			
嘱託員数	0.5	0.5	0			
嘱託員人件費	1,560,200	1,562,943	0			
(間接経費)						
間接経費	82,063	202,573	188,073			
総コスト	31,345,084	25,260,574	21,380,013	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
市では、昭和31年の「文化財保護条例」制定後、平成19年には同条例を全部改正した「文化財の保存及び活用に関する条例」を制定し、平成31年3月末現在、国指定文化財9件、国登録有形文化財1件、国選択記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財1件、文部科学省認定重要美術品4件、都指定文化財17件、市指定文化財43件、市登録文化財1件の計76件を保存・活用してきた。この中には、平成17年度の「武蔵府中熊野神社古墳」（国史跡）、平成21年度の「武蔵国府跡（国衙地区）」（国史跡）・「武蔵府中くらやみ祭」（都無形民俗文化財）、平成22年度の古代国司館の「国史跡武蔵国府跡」の追加、平成25年度の「大國魂神社の木造獅子頭一對」（市有形民俗文化財）・「武蔵台遺跡23号住居跡出土品」（都指定有形文化財・考古資料）、平成26年度の大國魂神社東照宮本殿（市有形文化財・建造物）の文化財指定などがあり、大きな成果をあげている。平成29年度に郷土の偉人である川崎平右衛門没後250年を記念して「川崎平右衛門ゆかりのまち交流事業」を実施した。
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
<ul style="list-style-type: none"> ハードの整備に加え、ソフト面での文化財の活用をいかに図っていくかが大きな課題であるとともに、市内の貴重な文化財のより一層の保存が必要となっている。 文化財保護審議会委員とも連携し、市内の貴重な文化財の指定を含めた保存と活用を図っていききたい。また、平成23年2月に国の追加指定史跡となった「武蔵国府跡国司館地区」の保存・活用、ケヤキ並木の保護・更新には、特に積極的な取り組みを行っていく必要がある。

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	50	30	10	1521500	文化財保護審議会運営費	1,334,000	1,270,079	1,334,000
2	01	50	30	10	1523000	文化財保護振興費	6,241,000	8,304,964	14,250,000
3	01	50	30	10	1529000	武蔵国府等展示活用事業費	3,939,000	3,116,735	6,843,000
4	01	50	30	10	1543000	負担金 東京都市多摩郷土誌フェア	15,000	15,000	15,000
5	01	50	30	10	1545000	負担金 全国史跡整備市町村協議会	70,000	70,000	70,000
6	01	50	30	10	1546000	負担金 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会	45,000	45,000	45,000
7	01	50	30	10	1548000	補助金 史談会活動事業費	64,000	64,000	64,000
8	01	50	30	10	1549500	補助金 文化財保存事業費	12,177,000	1,479,000	11,198,000
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							23,885,000	14,364,778	33,819,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	埋蔵文化財保存活用事業			事務事業コード	30470200
概要	市内の地下に保存されてきた埋蔵文化財（遺跡）の保護・活用				
総合計画	基本施策	5	文化・芸術活動の支援	主管部課名	文化スポーツ部 ふるさと文化財課
	施策	47	歴史文化遺産の保存と活用	事業類型	法定事業・任意事業混在
	事業種別	主要な事務事業	事業開始年度	昭和50年度～	見直しの裁量
根拠法令等	文化財保護法・東京都文化財保護条例、府中市文化財の保存及び活用に関する条例				
市関連事業					
対象	市内の埋蔵文化財				
実施の背景	開発により遺跡が破壊される場合に記録保存を行う。また、国府等に関わる重要な遺跡の保護を行う。				
事業目標	開発により破壊される遺構の記録保存及び重要遺跡の保護と保存及び活用				
事業内容	<p>▼開発による破壊される遺跡の記録保存を行うため、文化財保護法に基づき指定された範囲で個人住宅を建てる場合に、市が遺跡調査会に委託して緊急発掘調査を実施する。</p> <p>▼国府等の重要遺跡の保存と活用を行う。</p> <p>▼発掘調査成果をデータ化し、活用しやすい状態にすることで、利用の範囲が広がることから、このデータ化を継続するとともに、これらを公開・活用して積極的に発信することにより、市民の文化財保護に対する関心を高める。</p>				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<p>▼発掘調査</p> <p>埋蔵文化財発掘調査…7件 (920.8㎡)</p> <p>埋蔵文化財試掘調査…74件 (2,346.4㎡)</p> <p>調査報告書の発行…1冊</p> <p>▼保存整備活用</p> <p>データベースへの入力…1,048遺構</p> <p>撮影フィルムデジタル化…844枚</p>	<p>▼毎年必ず発掘調査が実施できていることから、市内の未調査箇所が年々減少してきており、埋蔵文化財の確認・保存が進み、府中市の歴史解明の進展が図れている。</p> <p>▼埋蔵文化財データベースシステムのデータ増加に伴い、届出者に対するスムーズな対応ができている。</p>	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)
届出に基づく埋蔵文化財の試掘調査、発掘調査の実施。調査後の、整理作業、調査報告書の作成、埋蔵文化財情報データベースシステムの更新、遺物の保存処理を行う。	埋蔵文化財の包蔵地を土木工事等で発掘しようとする方に、法律に基づく届出の必要性があることを理解して抱けるよう、周知を継続していく。また、届出における対応がスムーズに行えるよう、過去の調査結果のデータベース化を継続して行う。

H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<p>▼発掘調査</p> <p>埋蔵文化財発掘調査…10件 (786.6㎡)</p> <p>埋蔵文化財試掘調査…66件 (1828.4㎡)</p> <p>調査報告書の発行…1冊</p> <p>▼保存整備</p> <p>データベースへの入力…1,603遺構</p> <p>撮影フィルムデジタル化…368枚</p>	<p>▼埋蔵文化財包蔵地内での開発行為に際して、事業を遅らせることの無いよう、速やかに埋蔵文化財の保護を実施することができている。</p> <p>▼発見された埋蔵文化財を、適切に保護することができている。</p> <p>▼報告書の刊行や、データベースの蓄積などで、調査成果を市民に還元することができている。</p>	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R 2年度の具体的な取組 (Plan)	R 2年度の方向性 (Plan)
届出に基づく埋蔵文化財の試掘調査及び本発掘調査の実施。調査後における、適切な整理作業、報告書の刊行や埋蔵文化財情報データベースの更新等を行っていく。	埋蔵文化財包蔵地内での開発行為に対しては、法律に基づく届出等が義務付けられている。そのことを理解し、適切に対応していただけるよう、引き続き周知を行っていく。また、遅滞なく開発行為に着手していただくため、過去のデータを蓄積し、窓口での適切な対応、その後の各種調査の速やかな着手、実施に努めていく。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続		B
B 現状のまま継続	1 大幅な見直しは必要ない 2 見直しには法令等の改正が必須 3 見直しの必要性はあるが時期尚早 4 現状では見直しが不可能	
C 見直して継続	1 見直し・縮小 2 他事業との整理・統合	
D 休止・廃止等	1 休止 2 廃止 3 完了	
		1
		埋蔵文化財の保護は、法律で定められた必要事項である。また、埋蔵文化財の発掘調査は、本市の歴史解明には欠かせない。当該事業は、法律に提出の義務付けられた発掘届に基づく発掘調査であり、今後も継続して実施していく必要がある。

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析	
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度			
	-	計画値	当初値	-	-	-	-	数値の比較や推移で評価することがなじまないため、特に指標の設定は行わない。
		計画値	補正值	-	-	-	-	
		実績		-	-	-	-	
	-	計画値	当初値	-	-	-	-	
		計画値	補正值	-	-	-	-	
		実績		-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要性は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	63,267,000	56,723,000	59,901,000	77,189,000	0	0
国庫支出金	18,640,000	16,600,000	16,600,000	25,045,000	0	0
都支出金	8,000,000	8,300,000	8,300,000	12,542,000	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	36,627,000	31,823,000	35,001,000	39,602,000	0	0
予算現額	68,478,000	51,524,000	59,921,000	0	0	0
決算額	67,488,817	51,270,336	56,060,963	0	0	0
国庫支出金	18,112,000	13,850,000	14,136,000	0	0	0
都支出金	8,000,000	6,925,000	7,068,000	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	41,376,817	30,495,336	34,856,963	0	0	0
執行率	98.6%	99.5%	93.6%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	2.60	2.60	3.50			
職員人件費	19,972,222	20,446,470	28,111,843			
嘱託員数	2.5	2.5	2.5			
嘱託員人件費	7,801,000	7,814,715	7,727,308			
(間接経費)						
間接経費	167,009	459,166	71,132			
総コスト	95,429,048	79,990,687	91,971,245	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
<p>昭和50年の文化財保護法一部改正に伴い、府中市遺跡調査会を発足して以降現在まで市内の埋蔵文化財包蔵地で1,800箇所を超える発掘調査を実施してきた。その調査成果をデータベース化し、窓口でデータを公開することにより、届出者・開発事業者にわかり易く状況を説明することができている。</p> <p>また、このデータベースがあることで、周囲の状況把握が容易で、速やかに試掘の要不要について判断することが可能となり、開発事業の着手遅延を防ぐことができている。</p>
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
<p>法律に基づく事業ではあるが、市民の理解・協力によるところが大きい本事業において、その埋蔵文化財発掘調査の成果をいかに市民に還元するかが課題である。還元する方策として、文化庁より指導されている調査報告書の刊行や、各種展示会等の普及啓発事業が位置付けられるが、その充実が必要である。</p> <p>開発行為と一体であるため、開発行為着手前までに発掘調査を終わらせることが求められている。調査体制等について従来の体制を維持していくだけではなく、安定した体制を取れるよう検討が必要である。</p>

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	50	30	10	1524000	埋蔵文化財発掘調査費	54,888,000	51,842,176	75,058,000
2	01	50	30	10	1540000	埋蔵文化財整理事務所管理費 管理委託料	670,000	456,417	678,000
3	01	50	30	10	1541000	埋蔵文化財整理事務所管理費 光熱水費及び燃料費	908,000	925,567	918,000
4	01	50	30	10	1542000	埋蔵文化財整理事務所管理費 諸経費	3,435,000	2,836,803	535,000
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							59,901,000	56,060,963	77,189,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	武蔵国府跡保存活用事業			事務事業コード	30470300
概要	国史跡武蔵国府跡の保存・活用				
総合計画	基本施策	5	文化・芸術活動の支援	主管部課名	文化スポーツ部 ふるさと文化財課
	施策	47	歴史文化遺産の保存と活用	事業類型	法定事業・任意事業混在
	事業種別	主要な事務事業	事業開始年度	昭和50年度～	見直しの裁量
根拠法令等	文化財保護法、東京都文化財保護条例、府中市文化財の保存及び活用に関する条例				
市関連事業	埋蔵文化財保存活用事業				
対象	国史跡武蔵国府跡（国衙地区・国司館地区）				
実施の背景	国史跡武蔵国府跡は、昭和50年から40年に及ぶ発掘調査によって、国内で最も国府域の具体的な様相が明らかになっている。				
事業目標	国史跡武蔵国府跡を将来に亘って適切に保存し、市民と協働で広く活用を図っていく。				
事業内容	<p>大國魂神社の東に武蔵国の国衙があったことが調査により判明し、また、府中本町駅に隣接する地域では、国司館が建っていたことが調査によりわかっている。</p> <p>これらを適切に保存・活用するため、国史跡武蔵国府跡保存整備活用検討協議会を立ち上げ、学識経験者・関係団体代表・市民代表らの意見を取り入れながら、国史跡武蔵国府跡保存管理計画を策定し、本史跡を将来に亘って保存し、確実に次世代へと継承していく。国史跡武蔵国府跡（国司館地区）の保存整備活用にあたっては、史跡の保存とJ R府中本町駅前のにぎわいと魅力ある空間の両立をめざし、設計・施工を進めていく。</p> <p>また、史跡の歴史的価値を広く内外へ発信するため、市民と協働で活用を図っていく。</p>				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 A 重点化・拡大して継続
<ul style="list-style-type: none"> ○国史跡武蔵国府跡（国司館地区）史跡広場プレオープン（4月） ○国史跡武蔵国府跡（国司館地区）史跡広場供用開始（11月） ○国史跡武蔵国府跡保存整備活用検討会議の運営 ○国史跡武蔵国府跡保存整備活用検討会議作業 ○国史跡武蔵国府跡（国司館地区）保存活用整備（第2期）の事業手法の検討部会の運営 	<p>国史跡武蔵国府跡（国司館地区）は、第1期整備が4月にプレオープンした。11月には、1/10スケールの国司館復元模型及びCG復元画像で見ることができるVR映像機器（武蔵国府スコープ）による復元整備を終え、第1期整備事業が完了し、国司館と家康御殿史跡広場として供用開始した。供用開始にあたり、管理事務所兼ガイダンス施設を仮設で設置し、以後、武蔵国府スコープの貸出しを行った。</p>	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> ○国史跡武蔵国府跡（国司館地区）史跡広場の公開、維持管理 ○国史跡武蔵国府跡保存整備活用検討会議の運営 ○国史跡武蔵国府跡保存整備活用検討会議作業部会の運営 ○国史跡武蔵国府跡（国司館地区）保存活用第2期整備基本計画策定 	<p>国司館と家康御殿史跡広場で復元模型や武蔵国府スコープを活用して、見学者の利便を図る。また、第2期工事は文化庁・東京都の指導助言のもと、ガイダンス兼にぎわい施設建設に向けた基本計画策定を行う。</p>

H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 A 重点化・拡大して継続
<ul style="list-style-type: none"> ○国史跡武蔵国府跡（国司館地区）史跡広場の公開、維持管理 ○国史跡武蔵国府跡（国司館地区）保存活用第2期整備基本計画策定中 	<p>国司館と家康御殿史跡広場で復元模型や武蔵国府スコープを活用して、見学者の利便を図った。また、第2期工事は文化庁・東京都の指導助言のもと、ガイダンス兼にぎわい施設建設に向けた基本計画策定を行ったが、地盤調査等が必要となったため、来年度に継続することとなった。</p>	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R 2年度の具体的な取組 (Plan)	R 2年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> ○国史跡武蔵国府跡（国司館地区）史跡広場の公開、維持管理 ○国史跡武蔵国府跡保存整備活用検討会議の運営 ○国史跡武蔵国府跡保存整備活用検討会議作業部会の運営 ○国史跡武蔵国府跡（国司館地区）保存活用第2期整備基本計画策定完了 	<p>国司館と家康御殿史跡広場で復元模型や武蔵国府スコープを活用して、見学者の利便を図っていく。また、第2期工事は文化庁・東京都の指導助言のもと、ガイダンス兼にぎわい施設建設に向けた基本計画策定を完了させる。</p>

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	1 大幅な見直しは必要ない 2 見直しには法令等の改正が必須 3 見直しの必要性はあるが時期尚早 4 現状では見直しが不可能	A
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
<p>国史跡武蔵国府跡（国司館地区）保存活用整備事業は、これまでの経緯を踏まえながら、保存活用整備工事を実施し、平成30年度に第1期整備が完了し、全国でここしかない貴重な史跡として、その魅力と価値を市内外に発信するとともに、引き続き市民と協働で広く活用を進めていく。第2期整備については、ガイダンス兼にぎわい施設建設の事業手法について、さらに検討していく。</p>		

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
武蔵国府跡国司館地区入場者数	20,000	計画 当初値	20,000	25,000	30,000	35,000	初年度の供用開始が平成30年11月25日(日)以降の入場者数のため、目標に達しなかったが、平成31年度は国司館が周知され、目標値を大きく超える入場者数となった。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	14,459	36,147	-	-	-	
	-	計画 当初値	-	-	-	-	
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値(当初値から補正した値)

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	3

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	342,964,000	18,341,000	41,323,000	26,622,000	0	0
国庫支出金	171,350,000	0	0	0	0	0
都支出金	85,675,000	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	16,000,000	14,100,000	0	0
一般財源	85,939,000	18,341,000	25,323,000	12,522,000	0	0
予算現額	225,276,400	92,576,600	41,323,000	0	0	0
決算額	224,556,914	90,069,793	37,971,811	0	0	0
国庫支出金	104,241,000	38,485,000	0	0	0	0
都支出金	78,181,000	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	14,400,000	0	0	0
一般財源	42,134,914	51,584,793	23,571,811	0	0	0
執行率	99.7%	97.3%	91.9%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	1.35	1.35	2.00			
職員人件費	10,370,192	10,616,436	16,063,910			
嘱託員数	0.5	0.5	1			
嘱託員人件費	1,560,200	1,562,943	3,090,923			
(間接経費)						
間接経費	61,961	166,560	71,132			
総コスト	236,549,267	102,415,732	57,197,776	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

<p>これまでの主な取組と成果</p> <p>J R府中本町駅前位置する国史跡武蔵国府跡(国司館地区)について、全国でここにしかない貴重な史跡として、その魅力と価値を市内外に発信するため、整備を進めてきた。平成30年度は、1/10スケールの国司館復元模型及びCG復元画像で見ることができVR映像機器(武蔵国府スコープ)による復元整備を終え、第1期整備事業が完了し、国司館と家康御殿史跡広場として供用開始した。また、平成28年度に民間市場調査を行い、その結果をもとに、J R府中本町駅前のにぎわいと魅力ある空間を創出するよう第2期整備を行っていくため、令和元年度に建物規模等の検討を行ったが、さらなる検討が必要となった。</p>
<p>今後の課題・展開(未達成の課題・具体的な方策等)</p> <p>これまでの経過を踏まえた上で、第2期整備については史跡の保存とJ R府中本町駅前のにぎわいと魅力ある空間の両立を目指して、ガイドンス兼にぎわい施設建設の事業手法の検討を進めていく。また、史跡の歴史的価値を広く市内外へ発信しながら、年間を通じて多くの人々が集う場所としての幅広い活用の手法について、地元市民と協働で検討を行い、実施していく。</p>

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	50	30	10	1519800	武蔵国府跡保存整備活用検討会議運営費	264,000	0	414,000
2	01	50	30	10	1529100	武蔵国府跡（国司館地区）第2期整備基本計画策定費	19,960,000	18,117,869	17,567,000
3	01	50	30	10	1529600	武蔵国府跡（国司館地区）管理運営費 業務運営委託料	3,586,000	3,512,912	3,769,000
4	01	50	30	10	1529610	武蔵国府跡（国司館地区）管理運営費 管理委託料	1,527,000	1,253,643	3,168,000
5	01	50	30	10	1529620	武蔵国府跡（国司館地区）管理運営費 光熱水費	1,063,000	350,198	393,000
6	01	50	30	10	1529630	武蔵国府跡（国司館地区）管理運営費 諸経費	667,000	481,189	264,000
7	01	50	30	10	1529635	武蔵国府跡（国司館地区）管理運営費 諸経費（債務負担行為解消分）	14,256,000	14,256,000	1,047,000
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							41,323,000	37,971,811	26,622,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	ふるさと府中歴史館管理運営事業			事務事業コード	30470500
概要	「ふるさと府中歴史館」として管理・運営する。				
総合計画	基本施策	5	文化・芸術活動の支援	主管部課名	文化スポーツ部 ふるさと文化財課
	施策	47	歴史文化遺産の保存と活用	事業類型	任意事業
	事業種別	主要な事務事業	事業開始年度	平成23年度～	見直しの裁量
根拠法令等	文化財保護法、東京都文化財保護条例、府中市文化財保護条例、府中市文化財及び保存に関する条例				
市関連事業	府中市文化振興計画				
対象	ふるさと府中歴史館				
実施の背景	市の名の由来となった「武蔵国府」が置かれた場所付近に案内施設の要望があり、廃止となった旧中央図書館をリニューアルして、武蔵国府に関する情報発信等や歴史的資料・郷土資料等の収集・保存を行うことを目的とした。				
事業目標	武蔵国府に関する情報発信等の施設として、歴史的資料・郷土資料等の収集・保存を行い、市内外の多くの方に観ていただき理解をいただく。				
事業内容	1, 300年前に武蔵国府の中核施設である国衙が置かれた場所にあることを踏まえ、武蔵国府に関する情報発信等の施設として、歴史的資料・郷土資料等の収集・保存を行う。 また、古代国府を中心とした市の歴史や文化について、市民に発信し、関心を寄せられるよう、特別展や講座などを開催する。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<ul style="list-style-type: none"> ▼ふるさと府中歴史館の管理運営 ▼歴史的な文書資料の選別・収集・整理・保存 ▼文化財情報データベースシステムの運用 ▼くらのやみ祭特別展を開催し、8,695人入場 ▼夏休み子ども向け発掘特別展を開催し、16,249人入場 ▼府中の発掘お宝展2018を開催し、17,658人入場 ▼市史編さん講演会を2回実施し、156人参加 	ふるさと府中歴史館の管理運営のほか歴史的な文書資料の収集、整理及び保存を継続。 文化財情報データベースシステムを引き続き運用。 特別展として、くらのやみ祭展や夏休み子ども向け展示を開催するとともに、長年にわたる発掘調査における研究成果の企画展示、市史編さんによる講演会などを開催。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> ▼ふるさと府中歴史館の管理運営 ▼歴史的な文書資料の収集、整理及び保存 ▼文化財情報データベースシステムの運用 ▼くらのやみ祭特別展の開催 ▼夏休み子ども向け特別展の開催 ▼府中の発掘お宝展2019の開催 ▼市史編さん講演会などの実施 	ふるさと府中歴史館の管理運営のほか歴史的な文書資料の収集、整理及び保存を継続する。 文化財情報データベースシステムを引き続き運用する。 特別展として、くらのやみ祭展や夏休み子ども向け展示を開催するとともに、長年にわたる発掘調査における研究成果の企画展示、市史編さんによる講演会などを開催する。

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<ul style="list-style-type: none"> ▼ふるさと府中歴史館の管理運営 ▼歴史的な公文書資料の収集、整理及び保存 ▼文化財情報データベースシステムの運用 ▼くらのやみ祭特別展 8,822人 ▼夏休み子ども向け特別展 13,661人 ▼府中の発掘お宝展2019 20,984人 	開発者への問合せ対応や、市民への周知に効果が高いことから、文化財情報データベースシステムを引き続き運用する。また、くらのやみ祭展や夏休み期間中に子供向けのワークショップを伴う展示会を開催するとともに、長年にわたる発掘調査を基にした企画展示を行い、昨年以上の方に来館していただいた。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R2年度の具体的な取組 (Plan)	R2年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> ▼ふるさと府中歴史館の管理運営 ▼歴史的な公文書資料の収集、整理及び保存 ▼文化財情報データベースシステムの運用 ▼くらのやみ祭特別展の開催 ▼夏休み期間中の子ども向け特別展の開催 ▼企画展：府中の発掘お宝展2020の開催 	ふるさと府中歴史館の管理運営のほか、歴史的な公文書資料の収集、整理及び保存を継続する。 文化財情報データベースシステムについても引き続き運用し、くらのやみ祭展や夏休み期間中に子供向けのワークショップを伴う展示会を開催するとともに、長年にわたる発掘調査を基にした企画展示を行い、研究成果を公開する。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	長年にわたる発掘調査による研究成果の企画展示をはじめ、くらのやみ祭などイベントに合わせた展示等を行い、来館者の増加が図れている。今後も身近な教育の場となるよう、わかりやすい展示や企画に努め、来館者増を図っていく。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
「ふるさと府中歴史館」入館者数	88,962	計画値 当初値	94,700	96,600	98,600	100,000	平成31年度の入館者数は、昨年より増加した。これは、夏の猛暑等の天候による減少はあるものの、特別展示の実施に伴う効果が大きく、来館者の増加に大きく貢献したと思われる。
		計画値 補正值	-	-	-	-	
	実績	79,642	86,284	-	-	-	
-	-	計画値 当初値	-	-	-	-	令和 3年度
		計画値 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	2
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	2
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	3

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	25,006,000	25,474,000	26,493,000	27,132,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	25,006,000	25,474,000	26,493,000	27,132,000	0	0
予算現額	25,330,000	53,386,000	43,013,000	0	0	0
決算額	23,147,343	47,758,302	39,616,335	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	324,000	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	25,920	0	0	0	0
一般財源	22,823,343	47,732,382	39,616,335	0	0	0
執行率	91.4%	89.5%	92.1%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	0.85	0.85	1.20			
職員人件費	6,529,380	6,684,423	9,638,346			
嘱託員数	0.3	0.3	0.6			
嘱託員人件費	936,120	937,766	1,854,554			
(間接経費)						
間接経費	37,957	103,536	71,131			
総コスト	30,650,800	55,484,027	51,180,366	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
<p>ふるさと府中歴史館の整備は、平成20年度に建築工事と展示工事の実施設計を行い、全体計画を取りまとめた。建物内の配置は、機能や利便性に配慮し、1階を「国府メモリアルホール」、「万葉集の世界」及び「くらやみ祭紹介コーナー」に、2階を「宮町図書館」及び「公文書史料室・公文書史料展示室・国府資料室」に、3階を「事務室」として整備した。</p> <p>平成21年度からは耐震改修工事、各種設備工事及び「国府資料室」の展示工事を進め、平成23年4月に開館したものである。</p> <p>開館直後から、1・2階のコーナー利用以外に来館を促す様々な企画展示や講座の開催に努めてきた。</p>
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
<ul style="list-style-type: none"> 今後も市民の意見を伺いながら府中市の歴史や文化を紹介し、広く市民の郷土愛を高める施設として、多くの方に来館していただく施設としていく。 また、くらやみ祭展や発掘された最新の遺物の展示や、2階の公文書史料展示室を使用した、貴重な歴史資料の研究成果を公開する企画展など、魅力ある展示に努め、より多くの人と来館者とリピーターの確保に努めていく。 平成30年度に資料庫屋上の防水シート修理を行うなど、経年劣化による老朽化部分が発生してきている。建物の維持管理を引き続き行う必要がある。

6 構成事業一覧

(単位：円)

会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額	
						当初予算額	決算額		
1	01	50	30	10	1540500	ふるさと府中歴史館管理運営費 管理委託料	11,667,000	10,168,522	11,840,000
2	01	50	30	10	1540510	ふるさと府中歴史館管理運営費 光熱水費	4,819,000	4,646,156	4,986,000
3	01	50	30	10	1540520	ふるさと府中歴史館管理運営費 諸経費	9,007,000	11,733,657	9,306,000
4	01	50	30	10	1554781	ふるさと府中歴史館整備事業費 屋上改修工事費	0	13,068,000	
5	01	50	30	10	1554790	ふるさと府中歴史館整備事業費 緊急整備工事費	1,000,000	0	1,000,000
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							26,493,000	39,616,335	27,132,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	武蔵府中熊野神社古墳展示館管理運営事業			事務事業コード	30470600
概要	国史跡 武蔵府中熊野神社古墳展示館の管理、運営				
総合計画	基本施策	5	文化・芸術活動の支援	主管部課名	文化スポーツ部 ふるさと文化財課
	施策	47	歴史文化遺産の保存と活用	事業類型	法定事業・任意事業混在
	事業種別	その他の事務事業	事業開始年度	平成23年度～	見直しの裁量
根拠法令等					
市関連事業					
対象	古墳見学者				
実施の背景	平成17年に熊野神社古墳が国史跡に指定され復元整備が行われた。これに伴い古墳展示館が整備された。				
事業目標	国史跡武蔵府中熊野神社古墳の見学に際して、より古墳の意義の理解を促し、府中市の歴史を学習できる場とする。さらに、地域の情報発信のできる施設として市民と協働で活用する。				
事業内容	墳丘土層標本や調査中の写真、解説パネル等を設置し、熊野神社古墳の魅力を発信するための施設として、国史跡 武蔵府中熊野神社古墳展示館の建物管理及び受付、入館者対応などを行う。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<ul style="list-style-type: none"> ▼熊野神社古墳公園(第1期)工事が終了した。工事の間は、少しでも入館者への影響が少なくなるよう努めた。 ▼施設の利用者促進のため情報発信に努めた。 	団体申込数は減少したが、入館者数は昨年より増加しており、見学者に対して、工事の影響は少なくできたものと思われる。今後も継続して入館者数の増に努める。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)	
<ul style="list-style-type: none"> ▼武蔵府中熊野神社古墳展示館の業務運営 (受付等) ▼武蔵府中熊野神社古墳展示館の総合管理 (害虫除去、清掃、警備、消防設備・エレベーター保守、AEDリース) ▼見学者への説明対応 ▼トイレの夜間利用対応修繕 	武蔵府中熊野神社古墳展示館の業務・管理運営のほか入館者への説明対応を継続する。 武蔵府中熊野神社古墳公園(第1期)整備が終了したことに伴い公園の供用を開始予定であるが、第2期整備工事終了までの間、公園利用者でもトイレが利用できるよう展示館施設の改修を行う。	
H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<ul style="list-style-type: none"> ▼武蔵府中熊野神社古墳展示館の業務運営 (受付等) ▼武蔵府中熊野神社古墳展示館の総合管理 (害虫除去、清掃、警備、消防設備・エレベーター保守、AEDリース) ▼見学者への説明対応 ▼トイレの常時利用対応 	団体申込数は増加したが、台風19号の影響に伴う古墳まつりの中止により、入館者数は昨年より減少した。今後も継続して入館者数の増に努める。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R 2年度の具体的な取組 (Plan)	R 2年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> ▼武蔵府中熊野神社古墳展示館の業務運営 (受付等) ▼武蔵府中熊野神社古墳展示館の総合管理 (害虫除去、清掃、警備、消防設備・エレベーター保守、AEDリース) ▼見学者への説明対応 ▼トイレの常時利用対応 ▼新型コロナウイルスの感染防止対策 	武蔵府中熊野神社古墳展示館の業務・管理運営のほか入館者への説明対応を継続する。 武蔵府中熊野神社古墳公園の第2期整備工事終了までの間、公園利用者でもトイレが利用できるよう展示館施設のトイレ常用対応を継続する。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	テレビ、ラジオ、新聞等いろいろなメディアでも紹介されているので、古墳公園を含めた一体的なPRをし利用促進につながるよう努めていきたい。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
国史跡 武蔵府中熊野神社 古墳展示館 入館者数	10,138	計画 当初値	12,300	13,500	14,800	16,000	車での来場ができない施設であることから、天候の影響（スクールや炎天下等）により、入館者数が変動する。また今年度は、台風19号による影響で古墳まつりが中止になったことに伴い、来館者数が大幅に減少した。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	12,699	9,160	-	-	-	
-	-	計画 当初値	-	-	-	-	
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施するべきである	実施する必要は低い	2
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	7,366,000	7,154,000	11,122,000	8,321,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	7,366,000	7,154,000	11,122,000	8,321,000	0	0
予算現額	7,191,000	6,964,000	11,102,000	0	0	0
決算額	6,190,450	6,223,133	8,596,516	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	6,190,450	6,223,133	8,596,516	0	0	0
執行率	86.1%	89.4%	77.4%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	0.30	0.30	0.30			
職員人件費	2,304,487	2,359,208	2,409,587			
嘱託員数	0.15	0.15	0			
嘱託員人件費	468,060	468,883	0			
(間接経費)						
間接経費	15,183	40,514	71,131			
総コスト	8,978,180	9,091,738	11,077,234	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

<p>これまでの主な取組と成果</p> <p>平成23年度9月より、原寸大石室模型と共に古墳展示館をオープンした。その際、古墳展示館の受付業務を市民団体と協働して行うようにした。この市民団体の受付業務は好評で、古墳展示館の呼び物の一つであり、リピーターの増加にもつながっている。平成28年度は、古墳と展示館のキャラクターである「くまじい」「おくまちゃん」がゆるキャラグランプリにエントリーし、前回より800位以上アップしたことから展示館の知名度もあがってきたものと感じている。</p>
<p>今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）</p> <p>本古墳は、府中市及び日本の歴史を学ぶ上で欠かせない史跡であり、大人のみならず、多くの子どもが見学できるよう学校の見学との連携を図る必要がある。これには古墳保存会の協力が不可欠であり、見学者に対し、より古墳の理解を促し、府中市の歴史を学習できる場として活用していただく必要がある。また、外国人の見学も増加していくようであれば、見学の補助資料などの用意も検討する必要があると考えている。</p>

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	50	30	10	1540600	武蔵府中熊野神社古墳展示館管理運営費 業務運営委託料	3,190,000	3,187,393	3,191,000
2	01	50	30	10	1540610	武蔵府中熊野神社古墳展示館管理運営費 管理委託料	3,566,000	2,798,304	3,420,000
3	01	50	30	10	1540620	武蔵府中熊野神社古墳展示館管理運営費 光熱水費	1,383,000	889,276	1,288,000
4	01	50	30	10	1540630	武蔵府中熊野神社古墳展示館管理運営費 諸経費	2,983,000	1,721,543	422,000
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							11,122,000	8,596,516	8,321,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	市史編さん事業			事務事業コード	30470700
概要	府中市史編さん事業				
総合計画	基本施策	5	文化・芸術活動の支援	主管部課名	文化スポーツ部 ふるさと文化財課
	施策	47	歴史文化遺産の保存と活用	事業類型	任意事業
	事業種別	その他の事務事業	事業開始年度	平成26年度～	見直しの裁量
根拠法令等	無				
市関連事業	無				
対象	府中市史編さん				
実施の背景	以前の市史発行以降、本市の歴史資料と研究成果の集積は著しい。また自然・民俗などは環境が大きく変化している。市史の編さんによって成果の資料化を図り、市民に提供、周知し、歴史の検証を可能とする役割をもっている。				
事業目標	平成35年度(市制施行70周年)までに市史の資料編及び通史編等の刊行物の発行を完了させる。				
事業内容	<p>原始古代から近現代にかけて、自然や民俗を含めた様々な府中市における歴史を記録した「市史」を、昭和43年及び49年に発行しており、その後の変化や多岐にわたる学問分野における新たな資料の蓄積を内容に加えて、新たな府中市史を発刊する。市史編さん審議会が策定した市史編さんの構想等に基づき、時代区分ごと等の専門部会を設置するなど、編さんを推進している。専門部会等では、資料の調査・分析等を行い、資料編及び通史編の発行にむけて計画的に作業を進めている。また、市史編さんの事業として、講演会の開催や「市史編さんだより」の発行などの広報活動を行っている。</p>				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<ul style="list-style-type: none"> ▼専門部会による資料収集、調査研究を継続実施した。 ▼「新府中市史」刊行物4冊を編集発行。「原始・古代資料編1考古資料1」「原始・古代資料編2文献史料」「近現代資料編上」「新府中市史研究第1号」 ▼市史講演会を2回開催した(近現代・民俗)。 ▼レベルアップ事業・ビジュアル版市史の原稿・翻訳・原画・地図を作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ▼市史の基礎となる資料収集、調査研究成果を蓄積することができた。 ▼編さん方針に基づいて刊行物を発行することができた。 ▼研究紀要の第1号を発行することができた。 ▼市史講演会では市民に調査成果の一端を紹介できた。 ▼ビジュアル版市史に掲載する原稿・翻訳・原画・地図を制作、翌年度の刊行に向けて準備を進めることができた。 	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> ▼専門部会による資料収集、調査研究を継続実施する。 ▼「新府中市史」刊行物の編集発行。「原始・古代資料編3考古資料2」「中世資料編」「近世資料編上」「自然報告書 民俗報告書(二) 市史研究 古文書目録」 ▼レベルアップ事業「ビジュアル版府中市史」をラグビーワールドカップに合わせて編集発行する。 ▼市史講演会を数回開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ▼事業計画全体の後半に入ったので進行を再度確認し、刊行物の発行予定等に適切な修正を加えたい。 ▼刊行物の編集に重点的に取組み、遅滞なく発行したい。 ▼レベルアップ事業「ビジュアル版府中市史」を完成させ頒布を開始したい。 ▼市史講演会を開催したい。

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<ul style="list-style-type: none"> ▼専門部会による資料収集、調査研究を継続実施した。 ▼「新府中市史」刊行物5冊を編集発行。「中世資料編」「近世資料編上」「自然報告書」「民俗報告書(二)」「市史研究 古文書目録」 ▼レベルアップ事業「ビジュアル版府中市史」をラグビーワールドカップに合わせて編集発行した。 ▼市史講演会を1回開催した(中世)。 	<ul style="list-style-type: none"> ▼市史の基礎となる資料収集、調査研究成果を蓄積することができた。 ▼事業計画が後半に入ったので進行を再度確認し、刊行物の発行予定に適切な修正を加え発行した。 ▼新たに考古・美術工芸専門部会を設置し、資料収集、調査研究ができた。 ▼ラグビーワールドカップ開催に合わせ、「ビジュアル版府中市史」を発行することができた。 	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R2年度の具体的な取組 (Plan)	R2年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> ▼専門部会による資料収集、調査研究を継続実施する。 ▼「新府中市史」刊行物の編集発行。「原始・古代資料編2考古資料2」「近世資料編下」「近現代資料編中」市史研究 古文書目録 中世石塔類報告書 ▼市史講演会を数回開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ▼見直し・修正した発行予定に合わせ、刊行物を編集発行する。 ▼刊行物の編集に重点的に取組み、遅滞なく発行する。 ▼市史講演会を開催する。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	市史編さん事業については、「府中市史編さん方針」に基づいて、資料収集、調査研究、刊行物の発行を行った。事業計画全体の後半に入ったので進行を再度確認し、刊行物の発行予定等に適切な修正を加えたが、市政施行70周年時点での完了を実現するために、事業を継続していく。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析	
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度			
	-	計画値	当初値	-	-	-	-	数値の比較や推移で評価することがないため、特に指標の設定は行わない。
		計画値	補正值	-	-	-	-	
		実績		-	-	-	-	
	-	計画値	当初値	-	-	-	-	
		計画値	補正值	-	-	-	-	
		実績		-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要性は低い	2
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	1
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	36,514,000	53,484,000	59,543,000	49,061,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	30,000	30,000	4,130,000	30,000	0	0
一般財源	36,484,000	53,454,000	55,413,000	49,031,000	0	0
予算現額	36,514,000	47,182,000	59,543,000	0	0	0
決算額	26,211,620	41,757,803	44,648,191	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	3,200,000	0	0	0
一般財源	26,211,620	41,757,803	41,448,191	0	0	0
執行率	71.8%	88.5%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	4.90	4.90	5.70			
職員人件費	37,639,958	38,533,732	45,782,144			
嘱託員数	4.8	4.8	4.9			
嘱託員人件費	14,977,920	15,004,253	15,145,523			
(間接経費)						
間接経費	318,835	873,323	72,135			
総コスト	79,148,333	96,169,111	105,647,992	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
<p>平成26年度に「府中市史編さん方針」を策定し、27年度からは、専門研究者と市が一体となって専門部会を結成し、多くの市民や市内外の大学、関係機関の協力・支援をいただいて資料収集、調査研究に取組んできた。29年度以降は編さんの成果をまとめた報告書、資料編、研究紀要などの刊行物の編集発行にも取り組み、編さんの具体的な成果を実態のあるもので着実に提供できるようになった。また、この間に各専門部会の委員を講師とする講演会は6回開催、編さんよりは8号まで発行するなど、編さん成果の周知や普及にも積極的に取組んできた。</p>
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
<p>「府中市史編さん方針」で掲げたとおり、専門的な視点からの利用に応える質の高い内容を保つとともに、読みやすく、わかりやすく、広く親しまれる市史刊行物の発行を進めていきたい。また編さんの実務の遂行にあたっては、市民、関係機関、関係団体との協働を活用してまいりたい。刊行物については通史編の刊行によって完了する計画だが、その内容的な充実のためには、しっかりと基礎的な情報を事前にまとめておくことが欠かせない。そのため、当面の間は、市史の刊行は学術的な資料編や報告書が主体となる。</p>

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	50	30	10	1521610	市史編さん審議会運営費	336,000	300,425	336,000
2	01	50	30	10	1521700	市史編さん事業費	59,207,000	44,347,766	48,725,000
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							59,543,000	44,648,191	49,061,000